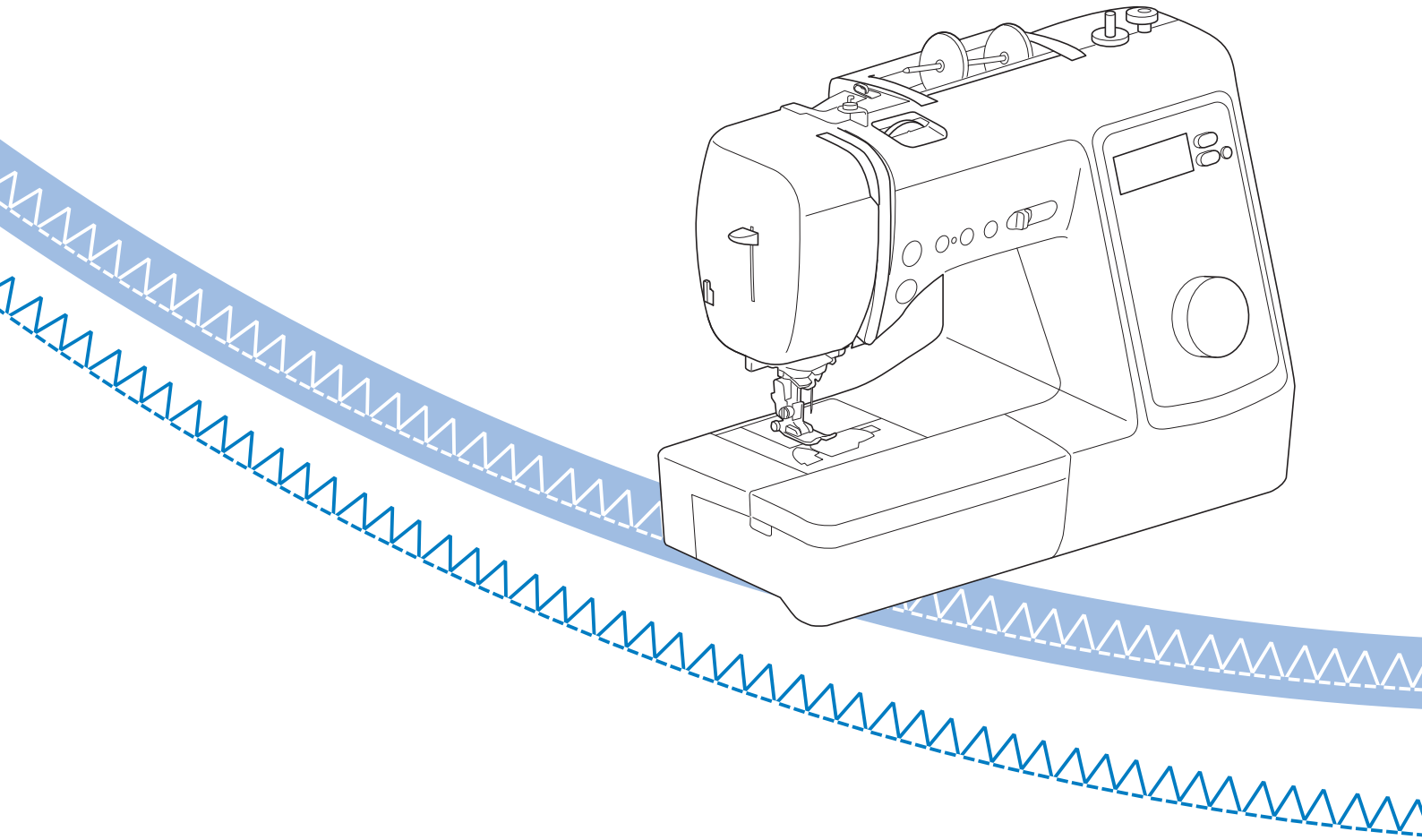
brother

取扱説明書

コンピューターミシン

CPM69 シリーズ



● ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みになり、正しくお使いください。
● 取扱説明書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
お使いになる前に「安全にお使いいただくために」をよくお読みいただき、取扱説明書で機能や正しい使い方を十分にご理解のうえ、末永くご愛用ください。
また取扱説明書は、読み終わったあとも、いつでもご覧になれるところに保管してください。

安全にお使いいただくために

取扱説明書および本製品で使われている表示や絵文字は、本製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
その表示や意味は次のとおりです。

⚠ 警 告	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
⚠ 注 意	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

取扱説明書で使用されている絵文字の意味は次のとおりです。


特定しない禁止事項


分解してはいけません


水に濡らしてはいけません


特定しない義務行為


電源プラグを抜いてください


特定しない危険通告


感電の危険があります


火災の危険があります


針の下に指を入れないでください

本製品を安全にお使いいただくために、次の事柄を守ってください。

⚠ 警 告	
	一般家庭用電源 AC100V の電源以外では、絶対に使用しないでください。 火災・感電・故障の原因となります。
	以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 火災・感電・故障の原因となります。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・使用中に停電したとき ・接触不良、断線などで正常に動作しないとき ・雷が鳴りはじめたとき

⚠ 注 意	
	延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
	電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。
	電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物をのせたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。 電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
	電源コードは、赤い印以上に引き出さないでください。
	長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。
	直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は 0 ～ 40 ℃です。ミシン内部の温度が上がったり、ミシン本体や電源コードの被膜が溶けて火災・感電の原因となります。
	火の気のあるもののそばでは使用しないでください（火の消えていないたばこ、ろうそくなど）。 火災の原因となります。

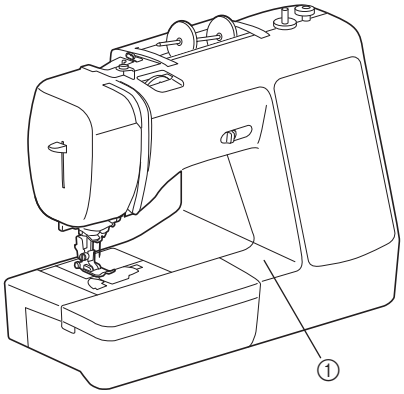
	野外でのご使用は避けてください。雨などが降り、本体が濡れて感電の原因となります。また濡れたときはお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
	温度や湿度の高い所でのご使用や保管は避けてください。
	スプレー製品などを使用する部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどや火災の原因となります。
	ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてけがをする原因となります。 ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。
	ミシン本体の換気口をふさがないでください。換気口は、必ず壁から 30cm 以上離して使用してください。また、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災の原因となります。
	ミシン本体の上に花びんや水の入った容器を置くなどして、ミシン本体に水をこぼさないでください。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	ミシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。万一、異物が入った場合は、使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
	ミシン本体の重さは約 6.8kg あります。ミシン本体を持ち運びする際は急激または、不用意な動作をしないでください。腰や膝を痛める原因となります。
	以下の場所に設置、保管をしないでください。故障の原因になります。 ・温度が著しく高くなる場所 ・温度が著しく低くなる場所 ・急激に温度が変化する場所 ・湿気、湯気の多い場所 ・火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所 ・屋外や直射日光の当たる場所 ・ほこり、油煙の多い場所
	ミシン本体は、必ずハンドルを持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべって落としたりして、けがの原因となります。
	ミシン本体には取扱説明書に記載されている付属品を使用してください。他の部品を使用するとけが・故障の原因となります。

	お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。火災・感電およびけがの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・掃除・修理は、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご依頼ください。
	取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。 けが・感電の原因となります。
	**ミシン操作中は、針の動きに十分ご注意ください。また、針、プーリー、てんびんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。**けがの原因となります。
	リッパーで穴を開ける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにけがをするおそれがあります。本来の使用目的以外での使用はしないでください。
	針や押えなどの交換およびそのほかの機能に関する使用については、取扱説明書の指示どおりに正しく行ってください。
	縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。けが・針折れの原因となります。
	**針の下などに指を入れないでください。**けがをするおそれがあります。
	上糸、下糸などに関する操作については、取扱説明書の指示どおりに正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみなどが発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。
	曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
	万一、ミシン本体を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	万一、煙が出ている、異臭がする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。
	本製品が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。
	お子様の玩具として使用しないでください。お子様が使用するときや、お子様の近くで使用するときは、お子様がけがをしないよう十分注意してください。
	フットコントローラーの上に物をのせないでください。 けが・故障の原因となります。

- このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。
  This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
  職業用としてご使用になった場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。
- 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたら「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- 本機をご使用になる方（お子様を含む）が、身体／知覚／精神的能力になんらかの障がいを持つ場合、あるいは経験や知識が十分でない場合には安全を保証できる責任者の監視の下でのみ本機を使用してください。
- お子様が使用するときは、玩具として使用しないよう、十分な監視の下で使用してください。

警告表示について

ミシン本体には下記の警告が表示されています。
警告表示の注意事項を守って作業を行ってください。
また、警告ラベルは、はがれたり、傷ついたりしないよう十分注意してください。
万一ラベルがはがれていたり、読みとれなくなった場合は速やかに「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。



①



商標

App Store は、Apple Inc. のサービスマークです。
Android、Google Play は、Google Inc. の商標です。これらの商標の使用は、Google 使用許諾の対象となります。

目次

第 1 章　ぬう前の準備　5

各部の名称 5
付属品 7
別売品 7
電源の入れ方 8
設定を変更する 9
下糸の準備 10
下糸を巻く 10
下糸をセットする 12
上糸通し 14
上糸を通す 14
下糸を引き出す 16
布地と糸の種類による針の使い分け 17
針の交換 18
正しい針の見分け方 18
針の交換 18
押えの交換 19
押えを交換する 19
押えホルダーを取り外す／取り付ける 20

第 2 章　基本のぬい方　21

ぬってみましょう 21
ミシンかけの手順 21
基本的なぬい方 21
返しぬい／止めぬいをする 23
自動で返しぬい／止めぬいをする 24
止めぬい優先を設定する 25
自動で糸を切る 25
振り幅／ぬい目の長さを調節する 26
糸調子を調節する 26
上手にぬうためのヒント 27
上手にぬうコツ 27
布端から一定の距離をぬう 28
いろいろな素材をぬう 29
飾り模様をぬう 30

第 3 章　いろいろなぬい方　31

ぬい方早見表 31
実用ぬい 34
布端を始末する 34
すそ上げをする 35
ボタン穴かがり 37
ファスナーつけ 39
アップリケ／パッチワーク／キルトぬい 40
その他のぬい方 43
模様の調整をする 46

第 4 章　付録　49

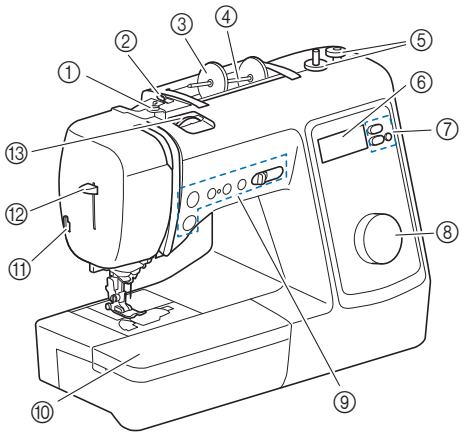
お手入れのしかた 49
注油に関して 49
ミシンを保管するときのご注意 49
かまの掃除 49
困ったとき 51
上糸がつる 51
布裏で糸がからまる 51
糸調子が合わない 52
布がミシンに入り込んでとれなくなった 53
ボビン受け座の下に糸がからまってしまった 55
こんなときは 55
エラーメッセージ 58
電子音について 58
仕様 59
索引 60

第1章　ぬう前の準備

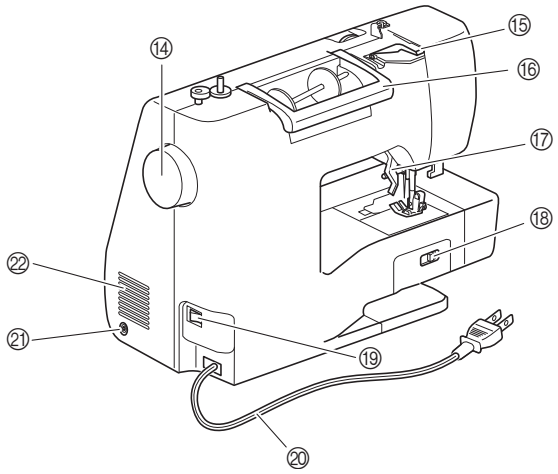
各部の名称

■ 主要部

□ 正面

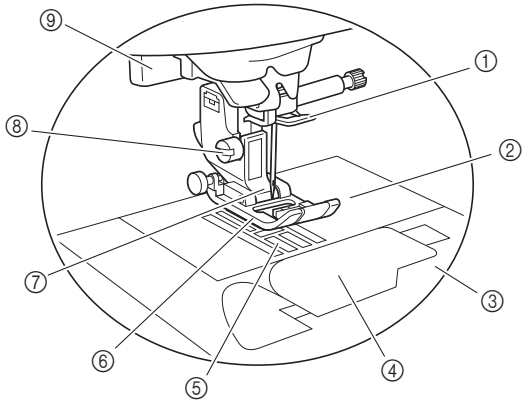


□ 右側面・背面



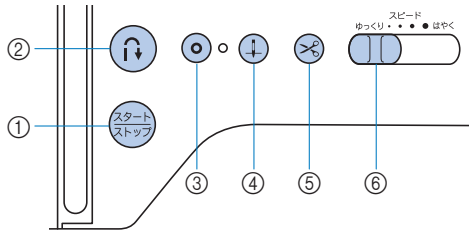
① **下糸巻き案内（P.11）**
② **糸案内（P.10）**
③ **糸こま押え（P.10）**
④ **糸たて棒（P.10）**
⑤ **下糸巻き装置（P.10）**
⑥ **液晶画面（P.6）**
⑦ **操作キー（P.6）**
⑧ **模様選択ダイヤル（P.21）**
⑨ **操作スイッチとスピードコントロールレバー（P.6）**
⑩ **補助テーブル（P.7）**
⑪ **糸切り（P.15）**
⑫ **糸通しレバー（P.15）**
⑬ **糸調子ダイヤル（P.26）**
⑭ **プーリー**
ぬい目を1針ずつ送ったり、針を上げ下げしたりするときに手前に回します。
⑮ **糸案内カバー（P.10）**
⑯ **ハンドル**
ミシンを持ち運ぶために使用します。
⑰ **押えレバー**
押えを上げ下げします。
⑱ **ドロップレバー**
送り歯を下げるときと、元に戻すときに使用します。（P.42）
⑲ **電源スイッチ（P.8）**
⑳ **電源コード（P.8）**
㉑ **フットコントローラージャック（P.23）**
㉒ **換気口**
モーターの換気用の穴です。ミシンを使用しているときはふさがないでください。

■ 針と押え部分



① **針棒糸かけ（P.15）**
② **針板（P.28）**
③ **針板カバー（P.12）**
④ **針板ふた／内かま（P.12、 50）**
⑤ **送り歯**
ぬう方向に布地を送ります。
⑥ **押え**
布地を押さえます。ぬい方に合った押えを取り付けてください。
⑦ **押えホルダー（P.20）**
⑧ **押えホルダーのネジ（P.20）**
⑨ **ボタン穴かがりレバー（P.38）**

■ 操作スイッチ



① **スタート／ストップスイッチ**
このスイッチを押すと、ミシンをスタートまたは停止します。

② **返しぬいスイッチ**
このスイッチを押すと、模様によって返しぬいまたは止めぬいをします。（P.23）

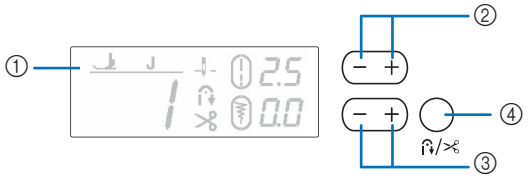
③ **止めぬいスイッチ**
このスイッチを押すと 1 針ぬいを繰り返した後で、止めぬいします。（P.23）
飾り模様をぬっているときにこのスイッチを押すと、模様を最後までぬってから止めぬいをします。
ボタンの横にある LED は、模様をぬっている時に点灯し、ぬい終わると消灯します。

④ **針上下スイッチ**
このスイッチを押すと、針の位置の上下が切り替わります。
2 回押すと、 1 針ぬいができます。

⑤ **糸切りスイッチ**
ぬい終わった後にこのスイッチを押すと、上糸と下糸を切ります。

⑥ **スピードコントロールレバー**
このレバーを左右に動かして、ぬう速さを調節します。

■ 操作パネルと操作キー



① **液晶画面**
選択した模様の設定値や、操作を誤ったときのエラーメッセージが表示されます。

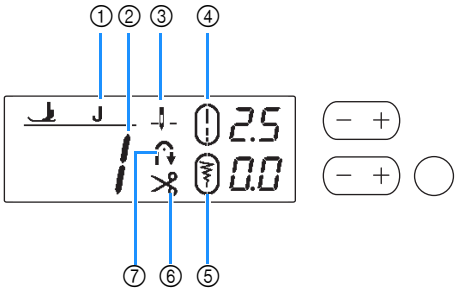
② **ぬい目の長さ調節キー**
ぬい目の長さを調節するときに押します。

③ **振り幅調節キー**
模様の振り幅を調節するときに押します。

④ **おまかせ止めぬい／糸切りキー**
自動返しぬい／止めぬいや自動糸切りを設定するときに押します。

■ 液晶画面

電源を入れると、液晶画面が点灯し、以下のような画面が表示されます。
表示されている内容を変更するには、画面の右側にある操作キーや模様選択ダイヤルを使います。



① **押え表示**
押え記号を表示します。ぬう前に、ここに表示されている押えを取り付けてください。（P.19）
J：ジグザグ押え＜J＞
N：模様ぬい押え＜N＞
G：たち目かがり押え＜G＞
A：ボタン穴かがり押え＜A＞
R：まつりぬい押え＜R＞
＊片押え＜I＞やキルト押えなど、液晶画面に表示されない押えもあります。

② **模様番号表示**
選択されている模様の番号を表示します。（P.21）

③ **針停止位置設定表示**
ミシンが停止しているときの針の位置が上下どちらに設定されているかを表示します。（P.9）
：針停止位置下
：針停止位置上

④ **ぬい目の長さ設定表示**
選択した模様について、ぬい目の長さの現在の設定値を表示します。（P.26）

⑤ **振り幅設定表示**
選択した模様について、振り幅の現在の設定値を表示します。（P.26）

⑥ **自動糸切り表示**
自動糸切り機能が設定されている場合、表示されます。（P.25）

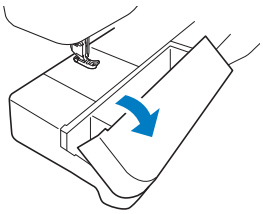
⑦ **自動返しぬい／止めぬい表示**
自動返しぬい／止めぬい機能が設定されている場合、表示されます。（P.24）

付属品

箱を開けたら、付属品が揃っていることを確認してください。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

付属品については、別紙「付属品」を参照してください。

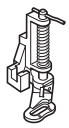
補助テーブルのふたを開けると、付属品収納スペースがあります。



別売品

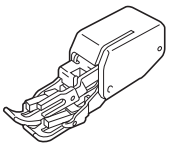
別売品・部品についてはお買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にお問い合わせください。

1.



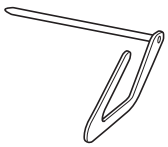
キルト押え
（モデル名： F005N）

2.



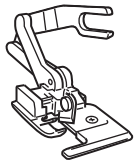
ウォーキングフット
（モデル名： F033）

3.



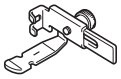
キルター
（モデル名： F016N）

4.



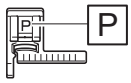
サイドカッター押え
（モデル名： F054）

5.



片押え
（モデル名： F036N）

6.



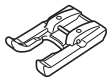
ステッチガイド押え＜P＞
（モデル名： F035N）

7.



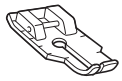
スムースフット
（モデル名： F007N）

8.



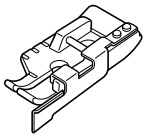
アップリケ押え
（モデル名： F060J）

9.



ピーシング押え
（モデル名： F001N）

10.



ガイド付きピーシング押え
（モデル名： F057）

11.



ウィングニードル
（モデル名： WN001）

12.



ワイドテーブル
（モデル名： WT15AP）

13.



フットコントローラー
（モデル名： FC32291、
型式： MODEL T）

14.



ボビン
（モデル名： B051 （5 個入り））
（モデル名： B101 （10 個入り））

お知らせ

- 仕様は予告なしに変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

電源の入れ方

⚠ 警告

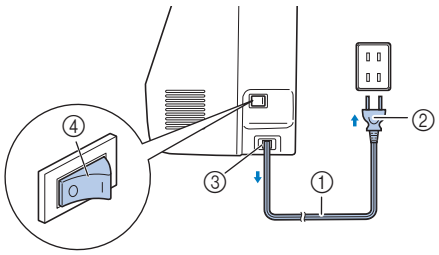
- 一般家庭用電源 **AC100V** の電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 次のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
  - ミシンのそばを離れるとき
  - ミシンを使用したあと
  - 使用中に停電したとき
  - 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
  - 雷が鳴りはじめたとき

⚠ 注意

- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。

1 電源スイッチが「切」になっている（「○」側を押してある）ことを確認します。

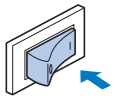
2 電源コードを引き出し、電源プラグを家庭用電源コンセント（AC100V）に差し込みます。



① 電源コード
② 電源プラグ
③ 赤い印
④ 電源スイッチ

お願い
- 電源コードは、赤い印以上引き出さないでください。

3 ミシン本体右側面の電源スイッチの右側（ I 側）を押して「入」にします。



→ 電源が入り、ライトと液晶画面が点灯します。針や送り歯が動くと音がしますが、故障ではありません。

4 ミシンの電源を切るには、電源スイッチの左側（○側）を押して「切」にします。

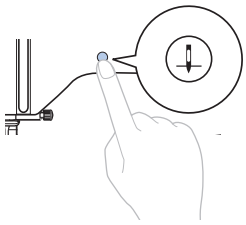
設定を変更する

■ 針停止位置の切り替え

模様をぬい終えたときの針停止位置を下から上に変更できます。

1 **針上下スイッチを長押し（3秒）します。**

→ ブザーが2回鳴り、針の停止位置が上に切り替わります。



液晶画面には以下のように表示されます。



お知らせ
- もう一度同じ操作をすると、ブザーが1回鳴り、針の停止位置は下に戻ります。
- この設定を変更すると、必ずブザーは鳴ります。

■ ブザー ON/OFF の切り替え

ブザーを OFF に変更できます。

1 **振り幅調節キー の「ー」側を押しながら電源を入れます。**

→ 無音で起動し、ブザーがOFFに切り替わります。



お知らせ
- もう一度同じ操作をすると、ブザーが1回鳴り、ブザーが ON に戻ります。

⚠ 注 意
- 針停止位置を変更すると、ブザーを OFF に設定していてもブザーが鳴ります。

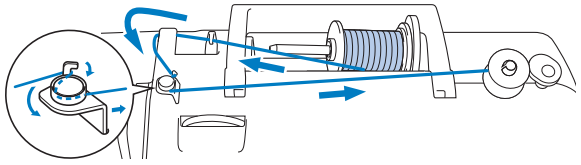
下糸の準備

⚠ 注 意

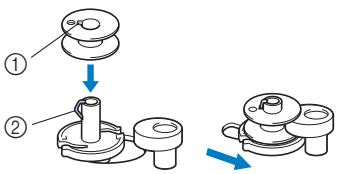
- 付属のボビンは本機純正品です。必ず純正ボビンをご使用ください。ボビンの高さは 11.5mm です。違うボビンを使用すると、ミシンが破損するおそれがあります。
- 過去に製造された純正ボビンには「b」マークが刻印されていないことがありますが、高さ 11.5mm の純正ボビンである場合、使用できます。

下糸を巻く

下糸用の糸をボビンに巻きます。



1 ボビンのミゾと下糸巻き軸のバネの位置を合わせてセットし、カチッと音がするまでボビンを右側に押します。

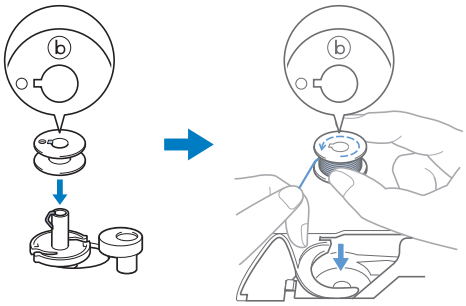


① ミゾ
② 下糸巻き軸のバネ

お知らせ

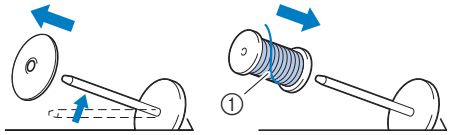
- セットしたボビンの向きを確認しておくと、後の手順で参考になります。同じ向きでボビンをかまにセットする (P.12 手順 6) ことで、正しい巻き方向で下糸がセットされます。

  本機付属ボビンの片面には「b」マークが刻印されていますので、参考にご使用ください。



2 糸こま押えを取り外し、下糸用の糸こまを糸たて棒に取り付けます。

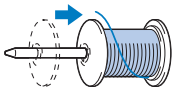
糸こまを糸たて棒に差し込み、糸が正面下から出るようにセットします。正しくセットしないと、糸が糸たて棒にからまるおそれがあります。



① 糸が正面下から出るようにセットします。

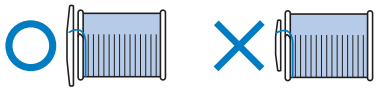
3 糸こま押えを糸たて棒に差し込みます。

糸こま押えの丸みをおびている面を外側にして、奥までしっかりと差し込みます。

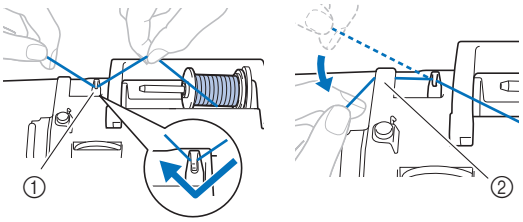


⚠ 注 意

- 糸こまや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、針折れの原因となります。
- 糸こま押え（大）（中）は糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまより小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、故障の原因となります。

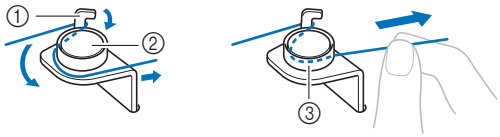


4 糸を糸案内のツメ部分にかけてから、糸案内カバーの奥から手前へかけます。



① 糸案内
② 糸案内カバー

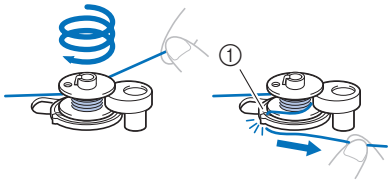
5 下糸巻き案内のツメに糸をかけて、皿の下に通します。



① 下糸巻き案内のツメ
② 皿
③ しっかり奥まで入れるように引っ張ります。

お願い
- 糸が皿の下を確実に通っていることを確認してください。

6 糸を時計回りに5～6回巻き付けて、ボビン受け座のガイドミゾにひっかけ、糸の端を切ります。

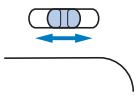


① ガイドミゾ（カッター付）

お願い
- 糸は、必ず時計回りに巻いてください。逆方向に巻くと、下糸巻き軸に糸が巻きつくことがあります。

注意
- 必ずガイドミゾのカッターで糸を切ってください。正しく糸を切らずに下糸を巻くと、糸量が少なくなったときにボビンに糸がからまり、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

7 スピードコントロールレバーで下糸を巻く速度を調節します。右に動かすと速く、左に動かすと遅くなります。



お知らせ
- ナイロン透明糸などの伸縮性のある糸は、伸びるおそれがあるため、遅い速度で巻くことをおすすめします。

8 電源を入れます。

9 スタート／ストップスイッチを押して、下糸巻きをスタートします。
フットコントローラーを接続している場合は、フットコントローラーを踏み込みます。



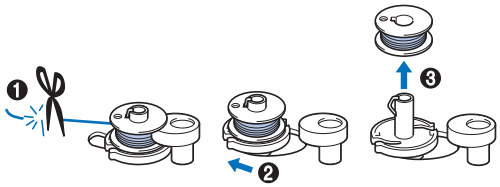
お願い
- ナイロン透明糸をボビンに巻くときは、1/2 ～ 2/3 程度巻いたところで止めてください。ナイロン透明糸をボビンいっぱいまで巻くと、巻きくずれや縫製不良の原因となります。また、ボビンに圧力がかかり、ボビンが下糸巻き軸から抜けなくなったりボビンが破損したりする原因となります。



10 ボビンの回転がゆっくりになったら、スタート／ストップスイッチを 1 回押して、下糸巻きを停止します。
フットコントローラーを接続している場合は、フットコントローラーから足を離します。

注意
- ボビンの回転がゆっくりになったら、必ず下糸巻きを停止してください。無理に続けると故障の原因となります。

11 糸を切り、下糸巻き軸をカチッと音がするまで左へ戻し、ボビンを取り外します。



12 スピードコントローラーを元の位置へ戻します。

13 糸こまを糸たて棒から外します。

下糸をセットする

下糸を巻いたボビンをかまにセットします。

ボビンをかまに入れ、針板カバーのミゾにそって糸を通してセットするだけで、すぐにぬい始めることができます（下糸を引き出す必要はありません）。

お知らせ

- 糸を引いてギャザーを寄せたいとき、フリーモーションキルトをするときなどぬい始めの糸の始末をしたいときは、あらかじめ下糸を引き出しておきます。詳細は、「下糸を引き出す」（P.16）を参照してください。

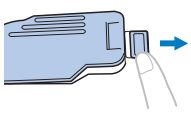
⚠ 注意

- 必ず正しく巻かれた下糸を使用してください。巻き方が悪い下糸を使用すると、針折れや糸調子不良の原因となります。

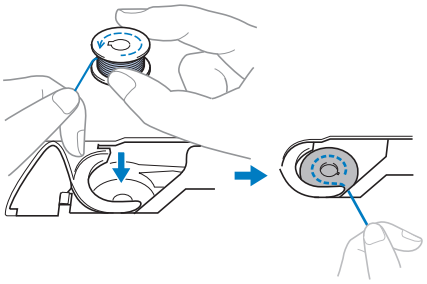


- 下糸をセットするときや交換するときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されるとミシンが作動してけがの原因となります。

1. 電源を入れます。
2. ㊦（針上下スイッチ）を 1 回または 2 回押して、針を上げます。
3. 電源を切ります。
4. 押えレバーを上げます。
5. 針板ふたの横のつまみを右側へスライドさせ、針板ふたを取り外します。



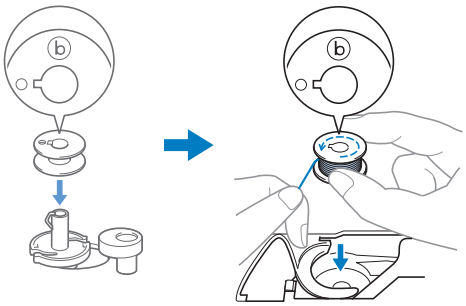
6. 糸が左巻きになるようにしてボビンをかまにセットします。



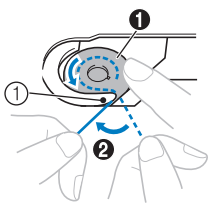
お知らせ

- 下糸巻き軸セット時 (P.10 手順 1) と同じ向きでボビンをセットすると、左巻きになります。

  本機付属ボビンの片面には「b」マークが刻印されていますので、参考にご使用ください。



7. 右手でボビンを軽く押さえながら（❶）、左手で巻き終わりの糸を針板カバーのツメにかけます（❷）。

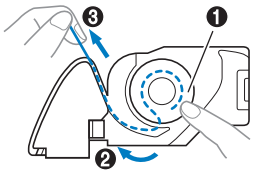


① ツメ

⚠ 注意

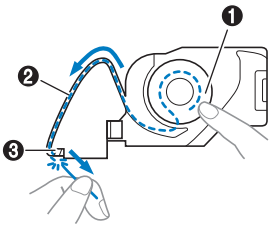
- ボビンは必ず指で押さえ、正しい方向から糸が出るようにセットしてください。万一、ボビンを逆の方向にセットすると、針折れや糸調子不良の原因となります。

8 右手でボビンを軽く押さえたまま（❶）、ツメにかけた糸を針板カバーのミゾにそって通し（❷）、左手で糸を軽く引っ張ります（❸）。



お知らせ
- この図の ❷ のように、糸を針板カバーのツメにかけてから糸を通し、❸ の位置で糸を軽く引っ張ることで、内かまの板ばねの間に糸が入り、ぬうときに下糸に適切な張力を加えることができるようになります。

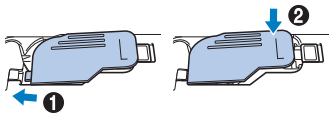
9 右手でボビンを軽く押さえたまま（❶）、左手で残りのミゾに糸を通します（❷）。最後に手前に引いてカッターで糸を切ります（❸）。



お知らせ
- 必ずこの手順に従って正しく下糸をセットしてください。針板カバーのミゾに糸をはめこむだけでは、下糸が正しくセットできず、縫製不良・糸調子不良の原因となります。

10 針板ふたを元に戻します。

針板ふたのタブを針板カバーに差し込んでから、針板ふたの右側を上から軽く押して取り付けます。



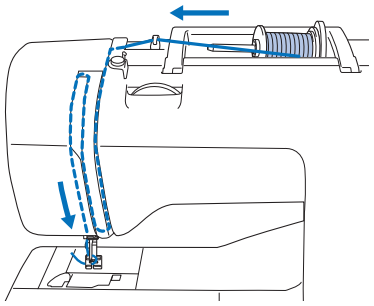
お知らせ
- 下糸を引き出さずにぬい始めることができます。下糸を引き出してからぬう場合は、「下糸を引き出す」（P.16）を参照してください。

上糸通し

⚠ 注 意

- 上糸は、手順に従って正しく通してください。上糸を正しく通していない場合、糸がからんで針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 20 番以下の太い糸は使用しないでください。
- 針と糸は、「布地と糸の種類による針の使い分け」（P.17）を参照して、適切な組み合わせで使用してください。

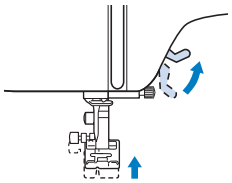
上糸を通す



→ 上糸を通すときは、以下手順に従って正しく行ってください。

1 電源を入れます。

2 押えレバーで押えを上げます。

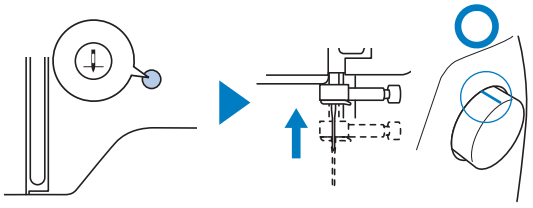


お願い

- 押えが上がっていない状態で上糸を通すことはできません。

3 ①（針上下スイッチ）を 1 回または 2 回押して、針を上げます。

→ 針が確実に上がっているときは、プーリーのしるしが上になります。必ず、プーリーのしるしが上になっていることを確認してください。上になっていない場合は、必ず、①（針上下スイッチ）を押して、針を一番上まで上げてください。



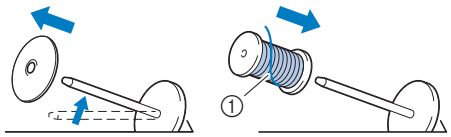
4 電源を切ります。

⚠ 注 意

- 糸を針に通すときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。

5 糸こま押えを取り外し、糸こまを糸たて棒に差し込みます。

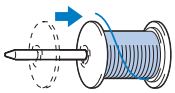
糸こまを糸たて棒に差し込み、糸が正面下から出るようにセットします。正しくセットしないと、糸が糸たて棒にからまるおそれがあります。



① 糸が正面下から出るようにセットします。

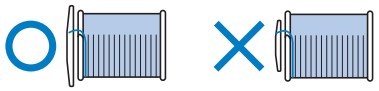
6 糸こま押えを糸たて棒に差し込みます。

糸こま押えの丸みをおびている面を外側にして、奥までしっかりと差し込みます。



⚠ 注 意

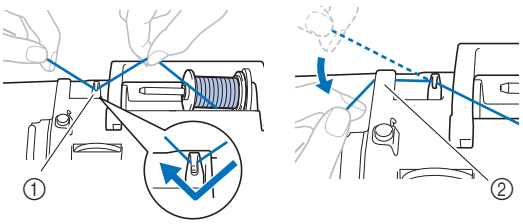
- 糸こま押えは糸こまの大きさに合わせて使用してください。
  適切な糸こま押えの選び方については、P.10 を参照してください。



- 糸こまや糸こま押えが正しく取り付けられていないと、糸が糸たて棒にからまったり、針が折れたりするおそれがあります。

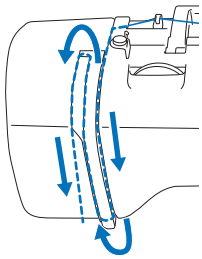
7 糸を糸案内のツメ部分にかけてから、糸案内カバーの奥から手前へかけます。

引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、左手で糸案内カバーにかけます。

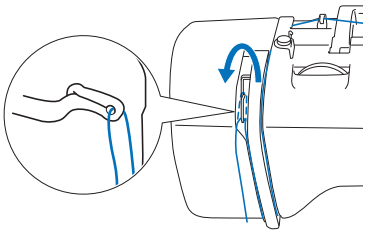


① 糸案内
② 糸案内カバー

8 矢印のように、ミゾにそって糸を通します。

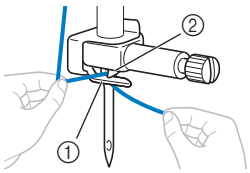


9 下図のように、糸が確実にてんびんに通っていることを確認します。



10 針棒糸かけに糸をかけます。

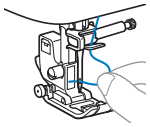
図のように、左手で糸を押さえ、右手で糸端を持ってかけると、針棒糸かけの後ろに通しやすくなります。針棒糸かけのツメの左側に糸が通っていることを確認してください。



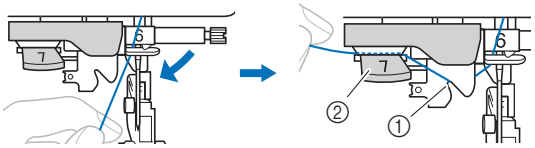
① 針棒糸かけ
② ツメ

11 針や糸が糸通し装置に対応していることを確認します。対応している場合は、次の手順に進みます。

- 糸通し装置は、 11 ～ 16 番のミシン針のみに使用できます。
- ウィングニードルを取り付けているときは、糸通し装置は使用できません。
- ナイロン透明糸や特殊な糸を使用するときは、糸通し装置は使用できません。
- 糸通し装置が使用できない場合は、手で糸を持ち、針穴の手前から後ろへ糸を通します。このとき手順 4 で示したように、電源を切ってください。

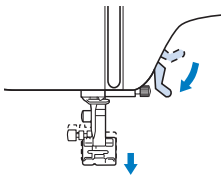


12 針棒糸かけに通した糸の端を左へ引いて、糸ガイドのミゾにかけたら、糸を前からしっかりと引き、番号 7 の糸案内皿のすき間にはさみ込みます。

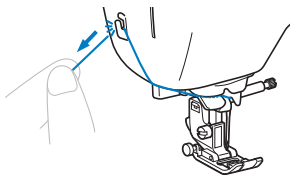


① 糸ガイドのミゾ
② 糸案内皿

13 押えレバーで押えを下げます。



14 ミシン本体左側面の糸切りで糸を切ります。

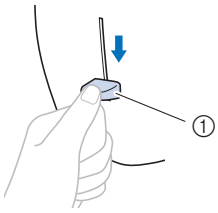


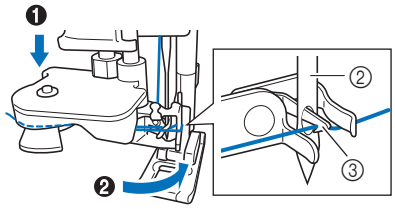
お願い

- メタリック糸など、糸こまからほどけやすい糸を使用する場合、糸切りで糸を切ると糸通しができないことがあります。このようなときは、糸案内皿（7 のしるし）に糸をかけた後、糸切りを使用せずに、糸を 8cm 以上 引き出してください。

15 ミシン本体左側面の糸通しレバーをフックが回転するまで下げます。

糸案内皿が下がってから（❶）、フックが回転します（❷）。



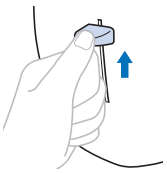


① 糸通しレバー
② 針
③ フック

お願い

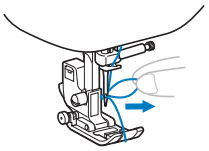
- 針が一番上の位置にないと、糸通し装置が正常に作動しません。一番上の位置にないときは、プーリーを手前に回し、一番上まで上げてください。針が確実に上がっているときは、プーリーのしるしが上になります。
P.14 の手順 3 を参照してください。

16 糸通しレバーをゆっくりと上へ戻します。

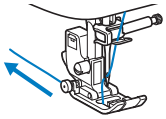


17 針穴を通った糸端をゆっくり引っ張ります。

針穴を通った糸が輪になった場合は、輪をゆっくり引っ張り、針穴から糸端を引き出します。



18 押えレバーを上げ、上糸を押えの穴から押えの下に通して、後ろ側へ 5cm ほど引き出します。



19 電源を入れます。

下糸を引き出す

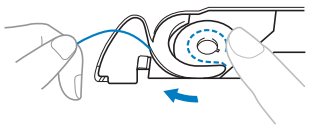
糸を引いてギャザーを寄せたいとき、フリーモーションキルトなどでぬい始めの糸の始末をしたいときは、あらかじめ下糸を引き出しておきます。

1 「上糸を通す」（P.14）を参照して、針に糸を通します。

2 「下糸をセットする」（P.12）の 1 ～ 6 を参照して、ボビンをかまに入れます。

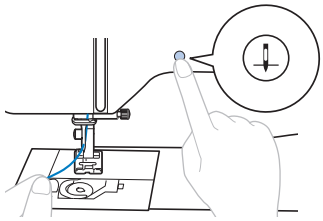
3 引き出した糸をミゾにそって途中まで通します。

下糸が引き出しにくくなるので、糸切りで糸を切らないでください。



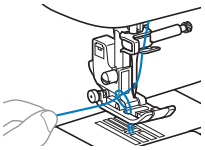
4 電源を入れます。

5 左手で上糸の端を軽く持ち、（針上下スイッチ）を 2 回押して、針を上げます。

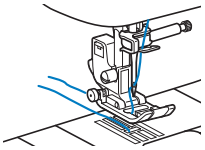


→ 下糸が針板から輪になって引き出されます。

6 上糸をゆっくりと上へ引き、下糸の糸端を引き出します。



7 上糸を押えの穴から押えの下に通して、下糸とそろえて押えの下から後ろ側へ 10cm ほど引き出します。



8 針板ふたを元に戻します。

布地と糸の種類による針の使い分け

- このミシンで使用できる針：家庭用ミシン針（HAx1 シリーズの太さ 9 ～ 16 番）　例） HAx1、 HAx1SP など
- このミシンで使用できる糸： 30 ～ 90 番
  ＊ 20 番以下の太い糸は使用しないでください。故障の原因となります。
- 布地により、ミシン針や糸を使い分けます。次の表を参考にして、布地に適した糸と針を選択してください。
  - 表は目安です。必ず試しぬいをしてください。使用する布地を、実際にぬう枚数分重ねてぬってください。
  - ミシン針は消耗品です。美しい仕上がりと安全のために、折れる前の早めの針交換をおすすめします。
    針交換の目安は「正しい針の見分け方」（P.18）を参照してください。

＊ 基本として、薄い布地には細い針と細い糸、厚い布地には太い針と太い糸を使用します。
＊ 薄い布地をぬうときはぬい目を細かく、厚い布地をぬうときは粗くします。（P.26）

		数字が小さいほど太い糸です。 細い← 90 ～ 60 ～ 30 →太い		数字が大きいほど太い針です。 細い← 9 ～ 11 ～ 14 ～ 16 →太い	布地に適した模様を選択し、ぬい目の長さを調節してください。
布地の特徴・種類		ミシン糸		針の太さ	ぬい目の長さ mm
		種類	太さ		
薄地	ローン、ジョーゼット、ポーラ、オーガンジー、シフォン、ボイル、ガーゼ、チュール、綿サテン、裏地 など	ポリエステル糸	60 ～ 90	9 ～ 11	細かいぬい目（1.8 ～ 2.5）
		綿糸、絹糸	50 ～ 80		
普通地	ブロード、タフタ、ギャバジン、フラノ、サッカー、ダブルガーゼ、リネン（麻布）、ちりめん、タオル地、ワッフル、シーチング、ポプリン、シャンブレー、ダンガリー、サテン、サージ など	ポリエステル糸	60 ～ 90	11 ～ 14	普通のぬい目（2.0 ～ 3.0）
		綿糸、絹糸	50 ～ 60		
厚地	デニム（12 オンス以上）、帆布 など	ポリエステル糸、綿糸	30	16	粗いぬい目（2.5 ～ 4.0）
	デニム（12 オンス以上）、帆布、ツィード、コーデュロイ、ベロア、キルティング、メルトン、モッサ、ビニールコーティング地 など	ポリエステル糸	60	14 ～ 16	
		綿糸、絹糸	30 ～ 50		
のびる布地（ニット素材など）	ジャージー、トリコット、Tシャツ地、フリース、スムース など	ニット用糸	50	ニット用針（金） 11 ～ 14	布地の厚みに応じて設定 ＊ 伸びる布地に適した模様の選択をおすすめします。（「伸びる布地をぬう」（P.30））
ステッチをかける場合 ＊ 20 番以下の太い糸（ステッチ糸）を使用しないでください。糸通し装置の故障や、針折れの原因となります。		ポリエステル糸	30	14 ～ 16	布地の厚みに応じて設定
			50 ～ 60	11 ～ 14	

■ ナイロン透明糸

布地や糸にかかわらず 14 ～ 16 番の針を使用します。

■ 文字模様・飾り模様をぬうとき（針・糸）

針は、薄地・普通地・伸びる布地のときは、ニット用針（金色） 11 番（別売）、厚地のときは家庭用ミシン針 14 番を使用します。糸は 50 ～ 60 番を使用します。

⚠ 注 意

- 布地と糸と針の組み合わせは、上記に従ってください。組み合わせが適切でない場合、ぬい目がふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因になります。特に、厚い布地（デニムなど）を細い針（9 ～ 11 番）でぬうと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

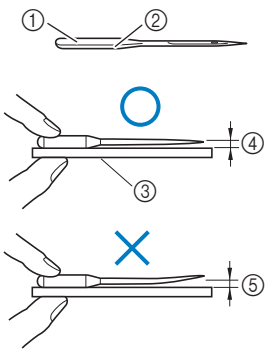
針の交換

⚠ 注 意

- 針は必ず家庭用ミシン針（ＨＡ×1）を使用してください。そのほかの針を使用すると、針が曲がったり、ミシンが故障する原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。けがをするおそれがあります。

正しい針の見分け方

針を使用する前に、針の平らな面を平らな板などに合わせて確認し、すき間が平行にならない針は使用しないでください。



① 平らな面
② 針の種類の刻印
③ 平らな板
④ 平行
⑤ 平行でない

☼ お願い

- 針は消耗品です。次の事例にあてはまるときは、針を交換して下さい。
  - 針が布地に刺さる際に通常と異なる音（パツパツやバスッバスッなど）が出るとき（針先が折れていたりつぶれていたりする可能性があります。）
  - 目とびが起きるとき（針が曲がっている可能性があります。）
  - 目安として、洋服などを１作品ぬい終えたとき

針の交換

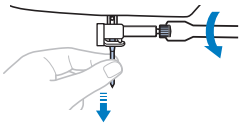
「正しい針の見分け方」で確認した新しい針と、付属のドライバーを用意します。

1. ⏚（針上下スイッチ）を１回または２回押して、針を上げます。
2. ミシン内部に針が落ちるのを防ぐために、押えの下に布または紙を置いて、針板の穴をふさぎます。
3. 電源を切ります。

⚠ 注 意

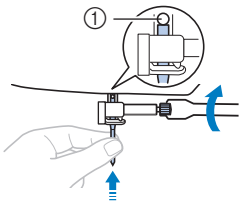
- 針を交換するときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されるとミシンが作動してけがの原因となります。

4. 「押えを交換する」（P.19）の3～4を参照して、押えを取り外します。
5. 左手で針を持ち、ドライバーで針のとめネジを手前（時計と反対回り）に回し、針を取り外します。



- とめネジをしめたりゆるめたりするときに、無理に力を加えないでください。ミシンの部品が破損するおそれがあります。

6. 新しい針を平らな面が後ろ側になるように、針棒のストッパーに当たるまで差し込みます。
   そのあと、ドライバーで針のとめネジを奥側（時計回り）に回し、針のとめネジをしめます。



① 針棒のストッパー

⚠ 注 意

- 針は必ずストッパーに当たるまで差し込み、ドライバーでとめネジを確実にしめてください。針が正しく取り付けられていないと、針折れや故障の原因となります。

7. 「押えを交換する」（P.19）の5～7を参照して、押えを元に戻します。
8. 電源を入れます。

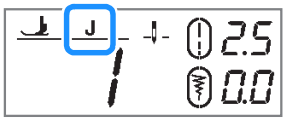
押えの交換

⚠ 注 意

- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。各模様で使用する押えについては、「ぬい方早見表」（P.31）を参照してください。
- 押えは必ず純正品を使用してください。純正品以外の押えを使用するとけがをしたり、ミシンが故障したりする原因となります。

お願い

- 模様を選択すると、使用する押えが液晶画面に表示されます。ぬい始める前に押えを確認してください。他の押えが取り付けられている場合は、いったんミシンの電源を切り、正しい押えを取り付けてから電源を入れ、もう一度模様を選択してください。



＊ 片押え＜ I ＞やキルト押えなど、液晶画面に表示されない押えもあります。

押えを交換する

1 ↕（針上下スイッチ）を 1 回または 2 回押して、針を上げます。

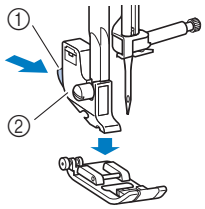
2 電源を切ります。

⚠ 注 意

- 押えを交換するときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されるとミシンが作動してけがの原因となります。

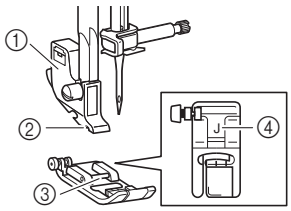
3 押えレバーを上げます。

4 押えホルダーの後ろ側の黒いボタンを押し、押えを取り外します。



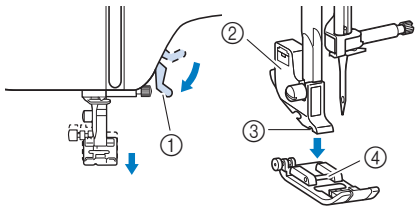
① 黒いボタン
② 押えホルダー

5 取り付ける押えのピンと押えホルダーのミゾが合う位置に押えを置きます。



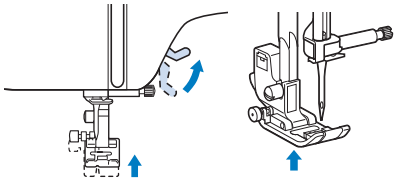
① 押えホルダー
② ミゾ
③ ピン
④ 押え記号

6 押えレバーをゆっくり下げて、押えホルダーのミゾを押えのピンにはめます。



① 押えレバー
② 押えホルダー
③ ミゾ
④ ピン
→ 押えが押えホルダーに取り付けられます。

7 押えレバーを上げて、押えが確実に取り付けられていることを確認します。



8 電源を入れます。

押えホルダーを取り外す／取り付ける

お手入れをするとき、または、ウォーキングフットなどの押えホルダーを使用しない押えを取り付けるときは、押えホルダーを取り外します。

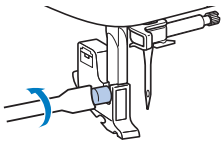
■ 押えホルダーを取り外すとき

1. 電源を切ります。

2. 押えを取り外します。
   - 詳細は、「押えを交換する」（P.19）を参照してください。

3. ドライバーで押えホルダーのネジをゆるめます。

   ネジは奥側（時計と反対回り）に回します。
   - 押えホルダーのネジは、ネジ回しでも回すことができます。

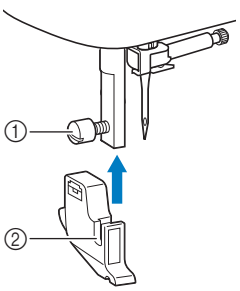


■ 押えホルダーを取り付けるとき

1. 電源を切ります。

2. 押えレバーを上げます。

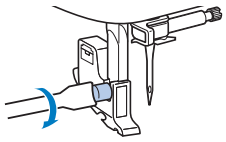
3. 押えホルダーのミゾを、ネジに合わせます。



① ネジ
② 押えホルダーのミゾ

4. 右手で押えホルダーを支え、左手でドライバーを使用してネジをしめます。

   ネジは手前（時計回り）に回します。



⚠ 注 意

- 押えホルダーのネジは、確実にしめてください。しめ方がゆるいと、押えホルダーが落ちて針に当たり、針が曲がったり折れたりするおそれがあります。

第2章　基本のぬい方

ぬってみましょう

⚠ 注 意

- ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針やプーリーなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。けがの原因となります。

- 縫製中は、布地を無理に引っ張ったり押したりしないでください。けがや針折れの原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。折れやすく、けがの原因となります。
- 縫製中は、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

ミシンかけの手順

ミシンをかけるときの基本の手順は次のとおりです。

1　電源を入れる

ミシンの電源を入れます。（P.8）

▼

2　模様を選ぶ

ぬう箇所に合わせて模様を選びます。
（P.21 手順4）

▼

3　押えを取り付ける

模様に合った押えを取り付けます。（P.19）

▼

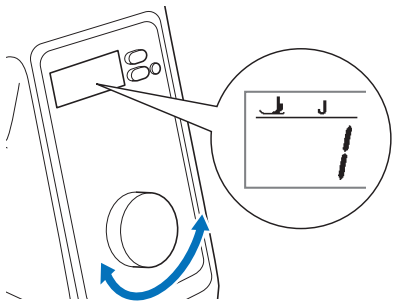
4　スタート

布をセットし、ミシンをスタートさせます。
ぬい終わったら糸を切ります。
詳細は、「基本的なぬい方」（P.21）を参照してください。

基本的なぬい方

☼ お願い
- 最初に、実際に使用する布地のはぎれと糸を使用して、試しぬいをしてください。

1. 布地に適した針と糸を準備します。（P.17）
   必要に応じて、針を交換します。（P.18）
2. 下糸をボビンに巻いて、ミシンにセットします。（P.10）
3. 上糸を通します。（P.14）
4. 模様選択ダイヤルを回して模様を選択します。
   → 選択した模様が、液晶画面に表示されます。



- 模様の詳細は、「ぬい方早見表」（P.31）を参照してください。
- 必要に応じて、振り幅やぬい目の長さを設定してください。（P.26）
- 液晶画面の詳細は、「液晶画面」を参照してください。（P.6）

5. 液晶画面に表示された押えを取り付けます。
   ここでは、ジグザグ押え＜J＞を取り付けます（購入時はミシンに取り付けられています）。

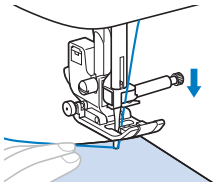


- 押えの交換方法については、「押えの交換」（P.19）を参照してください。

⚠ 注 意

- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあり、けがの原因となります。
  模様に適した押えについては、「ぬい方早見表」（P.31）を参照してください。

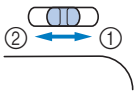
6 布地を押えの下に置き、左手で布地と糸端を押さえ、プーリーを時計と反対回りに回すか、↓（針上下スイッチ）を押してぬい始めの位置に針を刺します。



7 押えレバーを下げます。

8 スピードコントロールレバーでぬう速さを調節します。

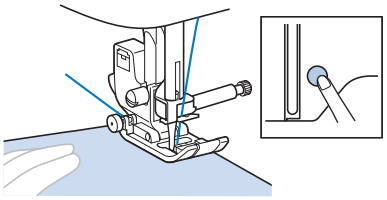
ぬっている途中でも、ぬう速さを調節することができます。



① はやく
② ゆっくり

9 スタート／ストップスイッチを押して、ぬい始めます。（フットコントローラーで操作している場合は、フットコントローラーをゆっくり踏み込みます。）

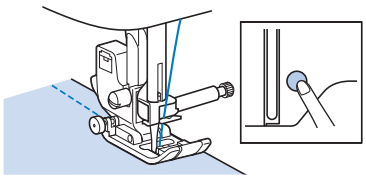
布地に軽く手を添えます。



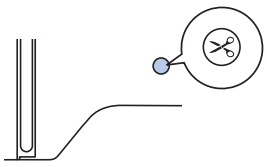
お知らせ

- フットコントローラーを接続しているときは、スタート／ストップスイッチは使用できません。

10 ぬい終わったら、もう一度スタート／ストップスイッチを押します。（フットコントローラーで操作している場合は、フットコントローラーから足を離します。）



11 ✂（糸切りスイッチ）を押して上糸と下糸を切ります。



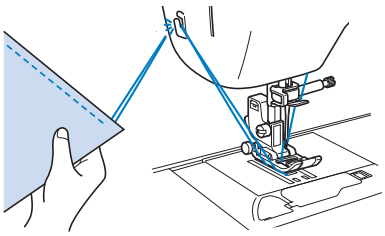
→ 針が自動的に上がります。

⚠ 注 意

- 糸を切った後は、✂（糸切りスイッチ）を押さないでください。糸がからまったり、針が折れたり、ミシンが故障する原因となります。
- 押えの下に布地がないときは、✂（糸切りスイッチ）を押さないでください。糸がからまったり、ミシンが故障する原因となります。

お願い

- ナイロン糸などの特殊な糸を切る場合は、本体左側面の糸切りを使用してください。



12 針が完全に止まったら、押えレバーを上げて布地を取り出します。

13 仕上がりを確認します。必要に応じて、糸調子を調節してください。（P.26）

■ フットコントローラー（別売）を使用する

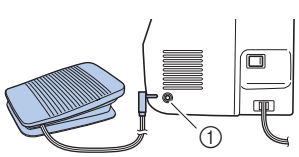
フットコントローラーを使用して、ミシンを操作することもできます。

お知らせ

- フットコントローラーを接続しているときは、スタート／ストップスイッチは使用できません。下糸巻きもフットコントローラーで操作します。

1 電源を切ります。

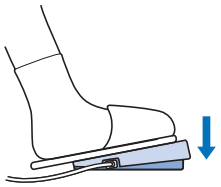
2 ミシンのフットコントローラージャックに、フットコントローラーのプラグを差し込みます。



① フットコントローラージャック

3 電源を入れます。

4 フットコントローラーをゆっくり踏み込み、ぬい始めます。



お知らせ

- スピードコントロールレバーで、フットコントローラーの最高速度を調節することができます。

5 ぬい終わりの位置まできたら、フットコントローラーから足を離します。

返しぬい／止めぬいをする

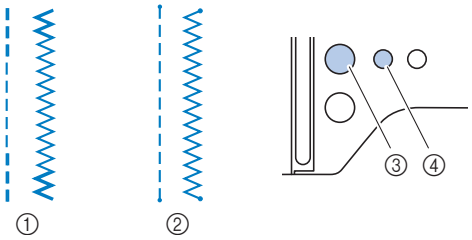
ぬい始めとぬい終わりは、糸の端がほつれないように、返しぬいまたは止めぬいをします。

止めぬいは同じ場所で 3 ～ 5 針ぬいます。返しぬいは反対方向にぬいます。

（返しぬいスイッチ）を押している間、選択した模様によって返しぬいまたは止めぬいをします。

お知らせ

- 返しぬい模様または止めぬい模様を選択したときに、（返しぬいスイッチ）を押すと、返しぬいをします。
  それ以外の模様を選択したときに、（返しぬいスイッチ）を押すと、止めぬいをします。
  詳細は、「ぬい方早見表」（P.31）を参照してください。
- （止めぬいスイッチ）を長押しすると、いずれの模様を選択していても、同じ場所で 3 ～ 5 針ぬってから止まります。



① 返しぬい
② 止めぬい
③ （返しぬいスイッチ）
④ （止めぬいスイッチ）

お知らせ

- 1 模様をぬっている間、（止めぬいスイッチ）の横にある緑の LED が点灯します。止めぬいが終わると、 LED は消えます。

自動で返しぬい／止めぬいをする

模様を選択したときに自動返しぬい／止めぬいを設定しておくと、ぬい始めとぬい終わりに自動的に止めぬい（模様によっては返しぬい）をします。

電源を切ると、自動返しぬい／止めぬいの設定は解除されます。

1 **模様を選択します。**

- 模様の選択については、「基本的なぬい方」（P.21）を参照してください。

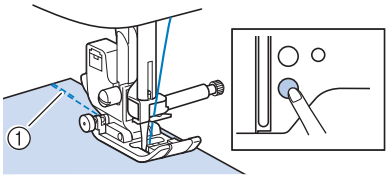
2 **/（おまかせ止めぬい／糸切りキー）を 2 回押します。**



→ 液晶画面に が表示され、自動返しぬい／止めぬいが設定されます。

- 自動返しぬい／止めぬいを解除するときは、/（おまかせ止めぬい／糸切りキー）を押してください。
  キーを押すたびに以下のように設定が変わります。
  「自動糸切り」→「自動返しぬい／止めぬい」→「設定なし」→「自動糸切り」・・・

3 **ぬい始めの位置に針を刺し、スタート／ストップスイッチを押してぬい始めます。**



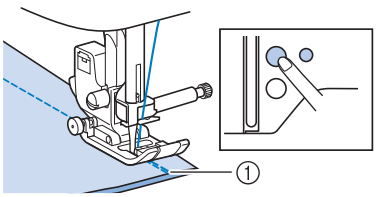
① 返しぬい（または止めぬい）

→ 自動的に返しぬい（または止めぬい）をしてぬい始めます。

お知らせ

- ぬっている途中でスタート／ストップスイッチを押すと、縫製を一時停止／再開できます。

4 **ぬい終わりの位置まできたら、（返しぬいスイッチ）または（止めぬいスイッチ）を押します。**



① 返しぬい（または止めぬい）

→ 自動的に返しぬい（または止めぬい）をしてぬい終わります。

それぞれのスイッチを押したときのミシンの動きは、選択している模様によって異なります。次の表を参照してください。

	返しぬいスイッチ	止めぬいスイッチ
自動返しぬい／止めぬい =OFF で、返しぬい模様を選択している場合	返しぬいスイッチを押している間だけ返しぬいをします。	止めぬいスイッチを押している間 3 ～ 5 針の止めぬいをします。
自動返しぬい／止めぬい =OFF で、止めぬい模様を選択している場合	返しぬいスイッチを押している間だけ返しぬいをします。 *	止めぬいスイッチを押している間 3 ～ 5 針の止めぬいをします。
自動返しぬい／止めぬい =OFF で、返しぬい模様、止めぬい模様以外の実用模様を選択している場合	返しぬいスイッチを押している間 3 ～ 5 針の止めぬいをします。	止めぬいスイッチを押している間 3 ～ 5 針の止めぬいをします。
自動返しぬい／止めぬい =OFF で、飾り模様を選択している場合	返しぬいスイッチを押している間 3 ～ 5 針の止めぬいをします。	止めぬいスイッチを押すと、1 模様を完成させてから止めぬいをします。
自動返しぬい／止めぬい =ON で、返しぬい模様を選択している場合	返しぬいスイッチを押すと、返しぬいをしてぬい終わります。（ぬい始めは自動で返しぬいをします。）	返しぬいスイッチを押すと、止めぬいをしてぬい終わります。（ぬい始めは自動で返しぬいをします。）
自動返しぬい／止めぬい =ON で、止めぬい模様を選択している場合	返しぬいスイッチを押すと、返しぬいをしてぬい終わります。 *（ぬい始めは自動で止めぬいをします。）	止めぬいスイッチを押すと、止めぬいをしてぬい終わります。（ぬい始めは自動で止めぬいをします。）
自動返しぬい／止めぬい =ON で、返しぬい模様、止めぬい模様以外の実用模様を選択している場合	返しぬいスイッチを押すと、止めぬいをしてぬい終わります。（ぬい始めは自動で止めぬいをします。）	止めぬいスイッチを押すと、止めぬいをしてぬい終わります。（ぬい始めは自動で止めぬいをします。）
自動返しぬい／止めぬい =ON で、飾り模様を選択している場合	返しぬいスイッチを押すと、止めぬいをしてぬい終わります。（ぬい始めは自動で止めぬいをします。）	止めぬいスイッチを押すと、1 模様を完成させてから止めぬいをしてぬい終わります。（ぬい始めは自動で止めぬいをします。）

* 止めぬい優先設定を「」にしている場合は、返しぬいの代わりに止めぬいをします。
設定方法は、「止めぬい優先を設定する」（P.25）を参照してください。

お知らせ

- ボタン穴かがりやかんどめなどの一部の模様では、ぬい始めに止めぬいをする必要があります。これらの模様では、自動返しぬい／止めぬいが自動的に設定されます（該当する模様を選択すると液晶画面に が表示されます）。

止めぬい優先を設定する

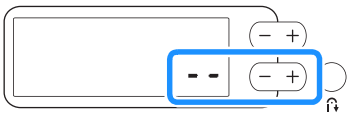
止めぬい優先を設定すると、（返しぬいスイッチ）を押しても止めぬいをします。

詳細は、「自動で返しぬい／止めぬいをする」（P.24）を参照してください。

1 **電源を切ります。**

2 **（止めぬいスイッチ）を押しながら、ミシンの電源を入れます。**

3 **振り幅調節キーの「-」または「+」を押します。**



→ 液晶画面の表示が「－ －」から「ON」に切り替わります。

4 **電源を切って、もう一度電源を入れます。**

→ 止めぬい優先が設定されます。

お知らせ

- もう一度同じ操作をすると、止めぬい優先は解除されます。

自動で糸を切る

ぬい終わりに自動で糸を切るように設定します。

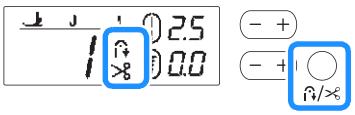
自動糸切りを設定すると、自動返しぬい／止めぬいも一緒に設定されます。

電源を切ると、自動糸切りの設定は解除されます。

1 **模様を選択します。**

- 模様の選択については、「基本的なぬい方」（P.21）を参照してください。

2 **（おまかせ止めぬい／糸切りキー）を押します。**



→ 液晶画面に と が表示され、自動糸切りと自動返しぬい／止めぬいが設定されます。

- 自動糸切りを解除するときは、（おまかせ止めぬい／糸切りキー）を押してください。

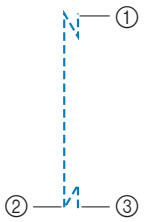
3 **ぬい始めの位置に針を刺し、スタート／ストップスイッチを押します。**

→ 自動的に返しぬい（または止めぬい）をしてから、ぬい始めます。

4 **ぬい終わりの位置まできたら、（返しぬいスイッチ）または（止めぬいスイッチ）を押します。**

ボタン穴かがりやかんどめなど、自動返しぬい／止めぬいが自動的に設定される模様を選択したときは、この操作は必要ありません。

→ 返しぬい（または止めぬい）をしてから、自動で糸を切ります。



① スタート／ストップスイッチを押した地点
② （返しぬいスイッチ）または（止めぬいスイッチ）を押した地点
③ ここで糸が切れます。

振り幅／ぬい目の長さを調節する

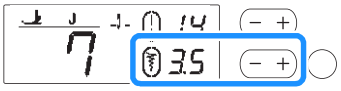
模様の振り幅（ジグザグの振り幅）やぬい目の長さは、あらかじめ模様ごとの標準値に設定されています。この設定は、必要に応じて変更することができます。

お知らせ
- もとの設定に戻すときは、電源を切るか、他の模様を選択します。
- 直線模様または3重ぬいを選択した場合は、振り幅を変更すると針の位置が移動します。振り幅を広くすると針は右に移動し、せまくすると左に移動します。（P.26）

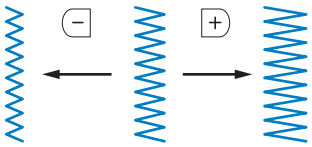
⚠ 注意
- 振り幅を調節したときは、プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- ぬい目がつまる場合は、ぬい目の長さをあらくしてください。ぬい目が詰まった状態でぬい続けると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

■ 振り幅を調節する

模様の振り幅（ジグザグの振り幅）を広くしたりせまくしたりすることができます。

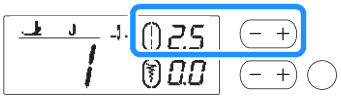


ジグザグの振り幅を標準値から変更すると、の0が消えます。ジグザグの振り幅を標準値に戻すと、の周囲に0が再表示されます。

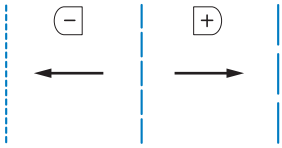


■ ぬい目の長さを調節する

ぬい目の長さを調節して、ぬい目をあらく（長く）したり細かく（短く）したりすることができます。



ぬい目の長さを標準値から変更すると、の0が消えます。ぬい目の長さを標準値に戻すと、の周囲に0が再表示されます。

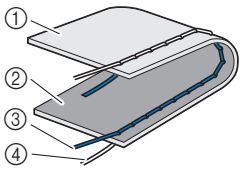


糸調子を調節する

布地や糸の種類に合わせて、糸調子を調節します。

■ 正しい糸調子

上糸と下糸が布地のほぼ中央でまじわります。布地の表に出るのは上糸だけで、布地の裏に出るのは下糸だけになります。

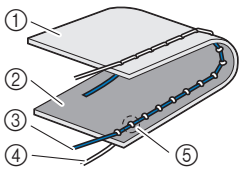


① 裏
② 表
③ 上糸
④ 下糸

■ 上糸が強いとき

布地の表に下糸が見える場合は、上糸が強すぎます。糸調子を弱くしてください。

お願い
- 下糸が正しくセットされていないと、上糸が強くなることがあります。上糸が強いときは、下糸のセットをやり直してください。「下糸をセットする」（P.12）を参照してください。



① 裏
② 表
③ 上糸
④ 下糸
⑤ 上糸が強いと上糸と下糸の重なりが表にできます。

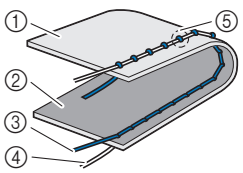
糸調子ダイヤルを左に回し、上糸調子を弱くします。



■ 上糸が弱いとき

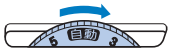
布地の裏に上糸が見える場合は、上糸が弱すぎます。糸調子を強くしてください。

お願い
- 上糸が正しくセットされていないと、上糸が弱くなることがあります。上糸が弱いときは、上糸通しをやり直してください。「上糸通し」（P.14）を参照してください。



① 裏
② 表
③ 上糸
④ 下糸
⑤ 上糸が弱いと上糸と下糸の重なりが裏にできます。

糸調子ダイヤルを右に回し、上糸調子を強くします。



お願い
- 下糸セットと上糸通しが正しく行われていない場合、糸調子が合わないことがあります。糸調子を調節しても糸調子が合わないときは、下糸セットと上糸通しをやり直してください。

上手にぬうためのヒント

上手にぬうコツ

■ 試しぬいをする

作品をぬい始める前に、実際に使用する布地のはぎれと糸で試しぬいをすることをおすすめします。
布地の枚数や模様に合わせて、糸調子や模様の幅・長さを確認してください。

お願い
- 布地の厚みや接着芯などが仕上がりに影響することもありますので、実際にぬう前に試しぬいをしてください。

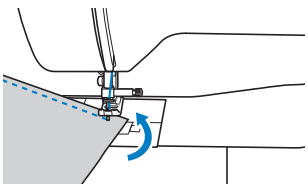
■ ぬう方向を変更する

1 角までぬったら、ミシンを停止させます。

このとき、針が下がった（布地に刺さった）状態にしておきます。もし針が上がっている場合は、（針上下スイッチ）を押して針を下げます。

2 押えレバーを上げ、布地を持って回転させます。

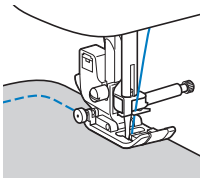
針位置を基点に回転させます。



3 押えレバーを下げ、続きをぬいます。

■ カーブをぬう

カーブの途中でミシンを停止させながら、少しずつ向きを変更してぬいます。「布端から一定の距離をぬう」（P.28）を参考にして、布端と平行になるようにぬいます。

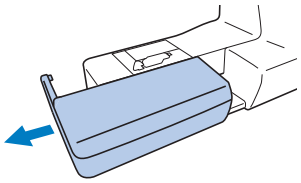


ジグザグ模様でカーブをぬうときは、ぬい目の長さを短めにする（または細かいジグザグ模様を選択する）ときれいに仕上がります。

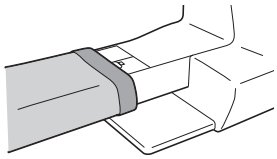
■ 筒ものをぬう

そでロやズボンのすそなどの小さな筒ものをぬうときは、補助テーブルを取り外してフリーアームにします。

1 補助テーブルを左へ引いて取り外します。



2 ぬいたい部分をアームにセットし、筒を回転させながら布地をぬっていきます。



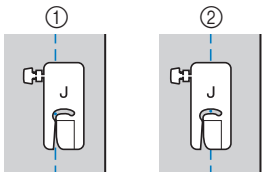
3 ぬい終わったら、補助テーブルを元に戻します。

布端から一定の距離をぬう

布端と平行に一定の幅でぬうときは、ぬいしろの端が右側になるようにぬい始め、押えの右端か針板の目盛りを基準にしてぬいます。

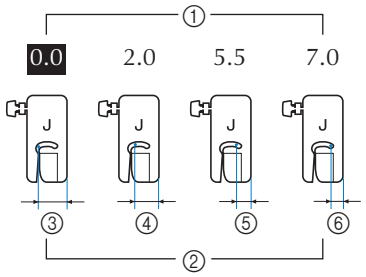
■ 針位置を変更する

直線［左］と直線［中］は、基線となる針位置が異なります。

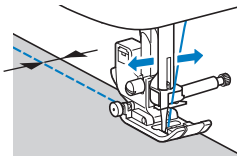


① 直線［左］
② 直線［中］

直線［左］は、ジグザグの振り幅が標準の設定（0.0mm）のときに、針位置から押えの右端まで12mm あります。振り幅を変更（0.0 ～ 7.0mm）すると、針位置を変更できます。押えの右端に布端を合わせてぬうと、一定の幅でぬうことができます。



① 振り幅
② 針位置から押え右端までの幅
③ 12.0mm
④ 10.0mm
⑤ 6.5mm
⑥ 5.0mm

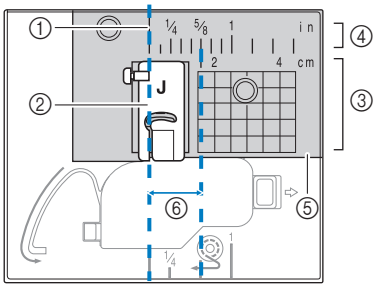


- 詳細は、「振り幅を調節する」（P.26）を参照してください。

■ 針板を基準にする

針板には、直線［左］の針位置からの長さが表示されています。針板に刻まれている目盛りと布端を合わせてぬいます。上側の目盛りは 1/8 インチ（約 3mm）単位、下側の目盛りは 5mm 単位になっています。

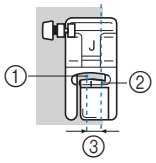
左基線の模様の場合（振り幅： 0.0mm ）



① ぬい目
② 押え
③ cm 目盛り
④ インチ目盛り
⑤ 針板
⑥ 1.6cm

■ ジグザグ押え＜J＞を基準にする

ジグザグ押え＜J＞のマーキングを使用して、布端から約 5mm の幅でぬうことができます。このとき直線模様の振り幅を 2.0mm にしてください。



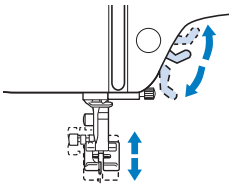
① 振り幅 2.0mm
② マーキング
③ 5mm

いろいろな素材をぬう

■厚い布地をぬう

□押えの下に布地が入らない場合

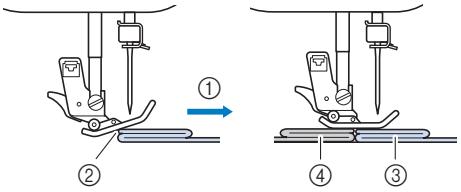
押えレバーは 2 段階に上がります。厚地を重ねてぬう場合など布地を入れにくいときは、レバーをさらに押し上げると、押えがもう一段上がり布地を入れやすくなります。



□布地が送られない場合

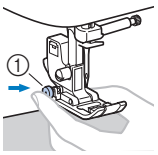
デニムやキルトのような厚い布地をぬうとき、下図のように、押えが水平にならず、ぬい始めに布地が送られないことがあります。そのようなときは、ジグザグ押え＜J＞の左側の黒いボタンを使用すると、押えを水平に保ち、スムーズに布地を送ることができます。

押えのずれが大きいときは、厚紙または布地（実際にぬう布地と同じ厚さにしておく）を押えのかかと部分の下に置き、スムーズにぬえるようにしてください。



① ぬう方向
② ずれ
③ 実際にぬう布地
④ 布地または厚紙

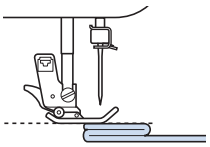
1. 押えレバーを上げます。
2. ぬい始めの位置に合わせて、布地をおきます。
3. ジグザグ押え＜J＞を水平に保持して、左側の押え固定ピン（左側の黒いボタン）を押したまま、押えレバーを下げます。



① 押え固定ピン（黒いボタン）

4. 押え固定ピン（黒いボタン）から手を離します。

→ 押えが水平に保たれ、布が送られます。



→ ぬい進めると押えは元に戻ります。

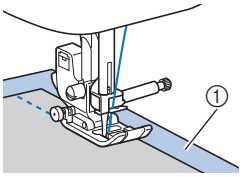
⚠ 注 意

- 6mm 以上の厚地をぬったり、無理に布地を押しこんだりすると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

■薄い布地をぬう

シフォンのような薄い布地をぬうと、ぬい目がつれてしまったり、布がうまく送られないことがあります。

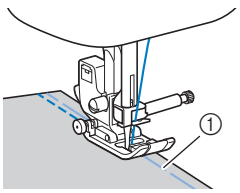
状態の良い針を使用し、針位置をいちばん左か右に設定すると、布地が送り歯の中に巻き込まれるのを防ぎやすくなります。布が巻き込まれたり、ぬい目がつれたりする場合、布地の下に水溶性シート（不織布タイプ）をしいて、布地と一緒にぬいます。



① 水溶性シート（不織布タイプ）

■ 伸びる布地をぬう

あらかじめしつけをして、布地を引っ張らないようにぬいます。ぬい目がつれる場合、布地の下に水溶性シート（不織布タイプ）をしいて、布地と一緒にぬいます。



① しつけ

ニット生地をぬうときは、伸縮ぬいを使用すると、きれいにぬうことができます。また、ニット用針（先端が丸い、金色の針）（別売）を使用してください。推奨する模様は以下の模様です。

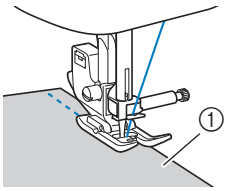
番号	05	06	09
模様			

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.31）を参照してください。

■ ビニールや皮革をぬう

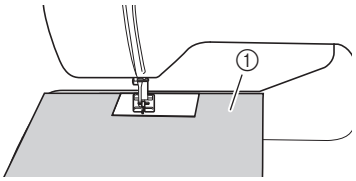
ビニールコーティングや皮革など、押えに貼りついてぬいにくい素材にはウォーキングフット *、スムースフット * を使用します。

* これらの押えは別売品です。



① 皮革

テーブル面にビニールコーティングや皮革などが貼りつく場合は、テーブルの上にコピー用紙やトレーシングペーパーをしいてぬうと、滑りやすくなります。
このとき、針板にかからないように紙を置くと、紙が布と一緒にぬわれません。



① コピー用紙やトレーシングペーパー

お願い

- ウォーキングフットは、直線模様またはジグザグ模様のみに使用できます。ウォーキングフット使用時は返しぬいをしないでください。
- ウォーキングフットを使用するときは、ゆっくり～中速の速さでぬってください。
- ウォーキングフットを使用するときは、あらかじめ実際に使用する布地のはぎれで試しぬいをして、布地に押えのあとが残らないことを確認してください。

■ 面ファスナー（マジックテープ®）をぬう

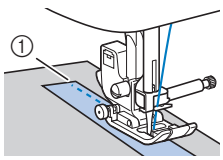
⚠ 注意

- **面ファスナーは、のりが付いていない縫製用のものを使用してください。のりが針や内かまに付着すると、故障の原因となります。**
- **面ファスナーを細い針（9 ～ 11 番）でぬうと、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。**

お願い

- ミシンでぬう前に、しつけをして面ファスナーと布地をぬい合わせておいてください。

プーリーを手で回して面ファスナーに針を刺し、針がスムーズに通ることを確認してから、面ファスナーの端を低速でぬいます。針が通らない場合は、厚地用の針と糸に交換してください。詳細は、「布地と糸の種類による針の使い分け」（P.17）を参照してください。

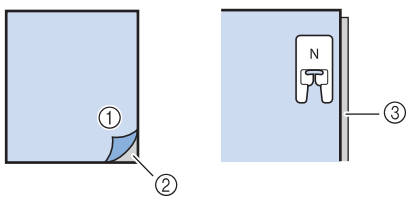


① 面ファスナーの端

お知らせ

- “マジックテープ®” は、株式会社クラレの、面ファスナーの登録商標です。

飾り模様をぬう

布地	伸びる布地、薄布地、織りの粗い布地は、裏面に別売りの接着芯を貼ってください。接着芯を貼りたくないときは、ハトロン紙などの薄い紙を布地の下に敷いてぬってください。  ① 布地 ② 接着芯 ③ 薄い紙
糸	50 ～ 60 番
針	薄地、普通地：家庭用ミシン針 11 番 伸びる布地：ニット用針（別売） 厚地：家庭用ミシン針 14 番

第3章　いろいろなぬい方

ぬい方早見表

■ 実用模様

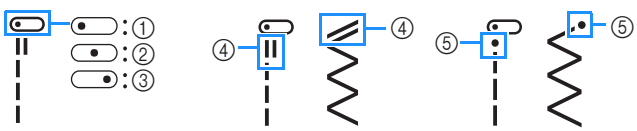
お知らせ

- 以下の模様（返しぬい模様または止めぬい模様）を選択したときに、(返しぬいスイッチ）を押すと、返しぬいをします。

番号	01	02	03	04	07	08	09	14	16
模様									

それ以外の模様を選択したときに、(返しぬいスイッチ）を押すと、止めぬいをします。

- 模様のイメージ記号は以下のことを表しています。



① 針位置が左（左基線）
② 針位置が真ん中（中基線）
③ 針位置が右（右基線）
④ 返しぬい模様
⑤ 止めぬい模様

お願い

- ウォーキングフットは、直線模様またはジグザグ模様のみに使用できます。ウォーキングフット（別売）を使用するときは、返しぬいをしないでください。

模様	番号	押え	名前／主な用途	振り幅（mm） 自動 手動	ぬい目の長さ（mm） 自動 手動
	01	J	**直線（左基線）** 地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	**0.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.2 - 5.0
	02	J	**直線（左基線）** 地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	**0.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.2 - 5.0
	03	J	**直線（中基線）** 地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	**3.5** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.2 - 5.0
	04	J	**直線（中基線）** 地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	**3.5** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.2 - 5.0
	05	J	**3 重ぬい** 丈夫なぬい目なので、袖つけや股下をぬうときに便利です。 また、伸びる布地をぬうときやステッチをかけるときに使用します。	**0.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 4.0
	06	J	**伸縮ぬい** 伸縮性のあるぬい目なので、伸びる布地をぬうときに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	**1.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 4.0
	07	J	**ジグザグ** たち目かがりやアップリケなどに使用します。	**3.5** 0.0 - 7.0	**1.4** 0.0 - 4.0
	08	J	**ジグザグ** たち目かがりやアップリケなどに使用します。	**3.5** 0.0 - 7.0	**1.4** 0.0 - 4.0
	09	J	**点線ジグザグ** 普通地、厚地、伸びる布地のたち目かがりやゴムひもつけ、つくろいぬいなど幅広い用途に使用します。	**5.0** 0.0 - 7.0	**1.0** 0.2 - 4.0

模様	番号	押え	名前／主な用途	振り幅（mm） 自動 手動	ぬい目の長さ (mm) 自動 手動
	10	G	**たち目かがり** 薄地、普通地のたち目かがりに使用します。	**3.5** 2.5 - 5.0	**2.0** 0.4 - 4.0
	11	G	**たち目かがり** 厚地のたち目かがりに使用します。	**5.0** 2.5 - 5.0	**2.5** 0.4 - 4.0
	12	G	**たち目かがり** 厚地のたち目かがりや飾りぬいに使用します。	**5.0** 3.5 - 5.0	**2.5** 0.4 - 4.0
	13	J	**たち目かがり** 伸びる布地のたち目かがりに使用します。	**5.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 4.0
	14	J	**ピーシング直線（右基線）** ピーシング用の直線です。押えの右端に布地を合わせてぬうと、ぬいしろの幅が 7.0mm でぬえるように針位置が設定されています。	**5.0** 0.0 - 7.0	**1.6** 0.2 - 5.0
	15	J	**手ぬい風直線** 上糸にナイロン透明糸、下糸にキルトに合った色の糸を使用すると手ぬい風のキルト直線がぬえます。 下糸が布の表側に見えるように、糸調子を強くしてぬいます。14 番または 16 番の針を使用してください。	**0.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 4.0
	16	J	**ジグザグ** アップリケキルトやフリーモーションキルト、サテンぬいなどに使用します。	**3.5** 0.0 - 7.0	**1.4** 0.0 - 4.0
	17	J	**キルティング模様** キルトで背景を埋めるときに使用します。	**7.0** 0.0 - 7.0	**1.6** 0.4 - 4.0
	18	R	**まつりぬい** 普通地のまつりぬいに使用します。 * 振り幅の数値の単位は mm ではありません。	**00** 3← - →3	**2.0** 0.4 - 4.0
	19	R	**まつりぬい** 伸びる布地のまつりぬいに使用します。 * 振り幅の数値の単位は mm ではありません。	**00** 3← - →3	**2.0** 0.4 - 4.0
	20	J	**アップリケ** アップリケに使用します。	**3.5** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 4.0
	21	J	**アップリケ** アップリケに使用します。	**2.5** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 4.0
	22	J	**シェルタック** シェルタックは貝殻を直線状にならべたような円弧状のひだを作るもので、ふち取りなどに用いるほか、ブラウス、ワンピースなどの胸元や袖に飾りぬいとして使用します。	**4.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.2 - 4.0
	23	N	**サテンスカラップ** スカラップは半月状の丸いカーブの連続した波形の模様をいいます。ブラウスやハンカチなどのふち飾りに使用します。	**5.0** 0.0 - 7.0	**0.5** 0.1 - 4.0
	24	J	**つきあわせ** パッチワークや飾りぬいに使用します。	**4.0** 0.0 - 7.0	**1.2** 0.2 - 4.0
	25	J	**つきあわせ** パッチワークや飾りぬいに使用します。	**5.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 4.0
	26	J	**つきあわせ** コードなどを使った飾りぬいに使用します。	**5.0** 0.0 - 7.0	**1.2** 0.2 - 4.0
	27	J	**スモッキング** スモッキングや飾りぬいに使用します。	**5.0** 0.0 - 7.0	**1.6** 0.4 - 4.0
	28	J	**ファゴティング** ファゴティングは布地と布地の間を離して糸でかがる方法をいい、ブラウスや子供服などに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	**5.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 4.0
	29	J	**ファゴティング** ファゴティングは布地と布地の間を離して糸でかがる方法をいい、ブラウスや子供服などに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	**5.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 4.0
	30	N	**飾りぬい** 飾りぬいに使用します。	**4.0** 0.0 - 7.0	**3.0** 0.4 - 4.0
	31	J	**飾りぬい** 飾りぬいに使用します。	**4.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 4.0
	32	J	**飾りぬい** 飾りぬいに使用します。	**5.5** 0.0 - 7.0	**1.6** 0.4 - 4.0

模様	番号	押え	名前／主な用途	振り幅（mm） 自動 手動	ぬい目の長さ（mm） 自動 手動
	33	N	**飾りぬい** 飾りぬいやゴムひもつけに使用します。	**5.0** 0.0 - 7.0	**1.0** 0.2 - 4.0
	34	N	**飾りぬい** レースつけやふち飾りなどに使用します。	**3.5** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 4.0
	35	N	**飾りぬい** ふち飾りなどに使用します。	**6.0** 0.0 - 7.0	**3.0** 0.4 - 4.0
	36	N	**飾りぬい** ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**5.0** 0.0 - 7.0	**4.0** 0.4 - 4.0
	37	A	**ボタン穴かがり** ねむり穴、横穴用。薄地から普通地のボタン穴かがりに使用します。ブラウス、シャツなどに使用します。	**5.0** 3.0 - 6.0	**0.4** 0.2 - 1.0
	38	A	**ボタン穴かがり** 両止めボタン穴かがり。麻、木綿など、ある程度腰のある素材に適しています。ホームウェアやブラウスなど手軽にぬえるものに使用します。	**5.0** 3.0 - 6.0	**0.4** 0.2 - 1.0
	39	A	**ボタン穴かがり** 横穴用。厚地のボタン穴かがりに使用します。	**6.0** 3.0 - 6.0	**1.0** 0.5 - 2.0
	40	A	**ボタン穴かがり** 伸びる布地や編み地のボタン穴かがりに使用します。	**6.0** 3.0 - 6.0	**1.5** 1.0 - 3.0
	41	A	**ボタン穴かがり** はとめ穴。厚地や毛足の長い布のボタン穴かがりに使用します。ブレザー、スーツ、コートなどに使用します。	**7.0** 3.0 - 7.0	**0.5** 0.3 - 1.0
	42	A	**かんどめ** ぬい目がほどけやすい箇所やポケット口などのあき止まり部分の力の加わる部分を補強したい場合に用います。	**2.0** 1.0 - 3.0	**0.4** 0.3 - 1.0

■飾り模様

押えには、模様ぬい押え＜N＞を使用してください。

飾り模様			サテンステッチ				クロスステッチ	
43	44	--	45	46	47	48	49	50
								

＊ 調整用の模様です。

実用ぬい

⚠ 注 意

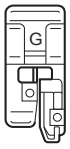
- 押えを交換するときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。
  押えの交換については、「押えの交換」(P.19) を参照してください。

布端を始末する

裁断した布端がほつれないように、たち目かがりをします。

■ たち目かがり押え＜G＞ を使用する

1 たち目かがり押え＜ G ＞を取り付けます。



2 模様を選択します。

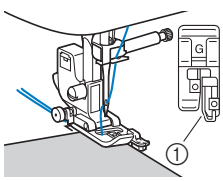
番号	10	11	12
模様			

- 詳細は、「ぬい方早見表」(P.31) を参照してください。

⚠ 注 意

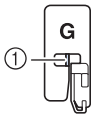
- たち目かがり押え＜ G ＞を使用するときは、必ずたち目かがり押え＜ G ＞用の模様を選んでください。間違った模様でぬうと、針が押えに当たり、針が折れたり、押えが破損したりするおそれがあります。

3 押えのガイドに布端を当て、押えレバーを下げます。



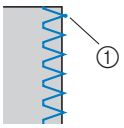
① ガイド

4 プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認します。



① 針が当たらないように注意してください。

5 布端をガイドに当てながら、ガイドにそってぬいます。



① 針落ち位置

⚠ 注 意

- ぬい終わった後は、布地を後ろに引いてください。前方向や横方向に布地を引っ張ると、押えのピンが破損するおそれがあります。
- 押えに糸がからみついた場合は、からんだ糸を取り除いてから、押えレバーを上げて押えを取り外してください。糸がからんだまま、押えレバーを上げると、押えが破損するおそれがあります。

6 ぬい終わったら、スタート／ストップスイッチを押してミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。

■ ジグザグ押え＜ J ＞を使用する

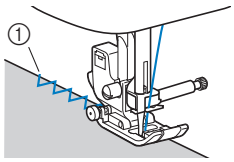
1 ジグザグ押え＜ J ＞を取り付けます。

2 模様を選択します。

番号	07	09	13
模様			

- 詳細は、「ぬい方早見表」(P.31) を参照してください。

3 針が布端右側に落ちるよう布端にそってぬいます。



① 針落ち位置

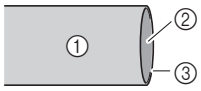
すそ上げをする

スカートやズボンのすそをまつります。

お知らせ

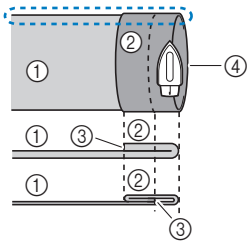
- 筒の大きさがアームに入らないほど小さいときや、筒の長さが短いときは、布地がうまく送られず、きれいに仕上がらないことがあります。

1 すそ上げをするスカートやズボンを裏返します。



① 裏
② 表
③ 布端

2 できあがり線で布を表に返し、アイロンをかけます。



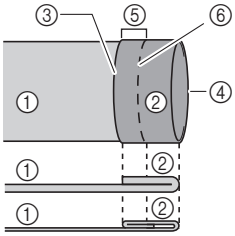
① 裏
② 表
③ 布端
④ できあがり線

＜ 厚い布地＞

＜ 普通地＞

＜ を横から見た図＞

3 布端から約 5mm のところにチャコペンで印をつけ、しつけをします。



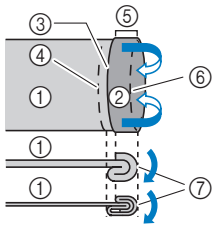
① 裏
② 表
③ 布端
④ できあがり線
⑤ 5mm
⑥ しつけ

＜ 厚い布地＞

＜ 普通地＞

＜ 横から見た図＞

4 しつけをしたところから、内側へ折り込みます。



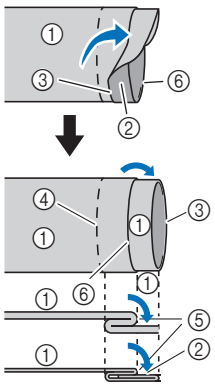
① 裏
② 表
③ 布端
④ できあがり線
⑤ 5mm
⑥ しつけ
⑦ しつけの位置

＜ 厚い布地＞

＜ 普通地＞

＜ 横から見た図＞

5 布端を開いて裏返します。



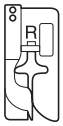
① 裏
② 表
③ 布端
④ できあがり線
⑤ しつけの位置
⑥ しつけ

＜ 厚い布地＞

＜ 普通地＞

＜ 横から見た図＞

6 まつりぬい押えを取り付けます。



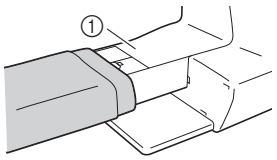
7 模様を選択します。

番号	18	19
模様		

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.31）を参照してください。

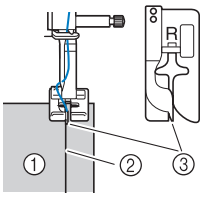
8 補助テーブルを外して、ミシンをフリーアームにします。

9 下図のように布地をアームにセットし、布地をを回転させられることを確認して、ミシンをスタートさせます。



① アーム

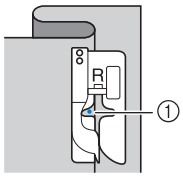
10 押えのガイドと布地の折り山が合うように布地をセットし、押えレバーを下げます。



① 裏
② 折り山
③ ガイド

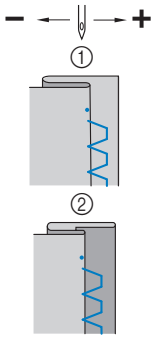
11 針の位置を調整します。

針が折り山に少しかかるよう、振り幅を調節します。(P.26)



① 針落ち位置

針落ち位置を変更するときは、針を上げてから振り幅を調整します。
＊ 振り幅を調整することで針の落ち位置の微調整ができます。(振り幅の設定の数値の単位は mm ではありません。)



① 厚い布地
② 普通地

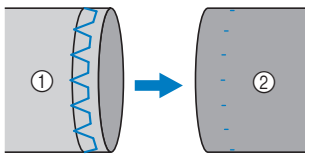
お知らせ
- 左側の針落ち位置が折り山にかかっていないと、まつりぬいをすることができません。
また、針があまり折り山のほうにかかりすぎると、折りを広げることができず布地の表側にぬい目が大きく出て、きれいに仕上がりません。

12 折り山に押えのガイドを沿わせてぬいます。

13 ぬい終わったらミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。

お願い
- ぬい終わった後は、布地を後ろに引いてください。前方向や横方向に布地を引っ張ると、押えが破損するおそれがあります。

14 しつけをほどき、布地を表に返します。

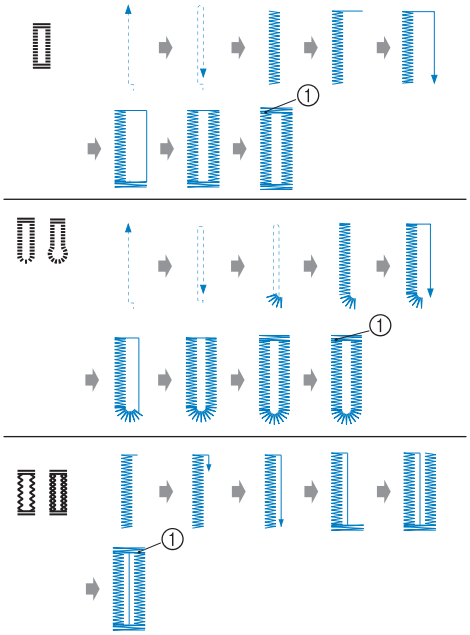


① 裏
② 表

ボタン穴かがり

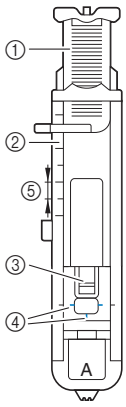
「ボタンの直径＋厚み」が 28mm までのボタンの穴を作ることができます。

ボタン穴かがりは、図のように押えの手前から後ろに向かってぬいます。



① 止めぬい

ボタン穴かがりで使用するボタン穴かがり押え＜ A ＞の各部の名称は以下のとおりです。

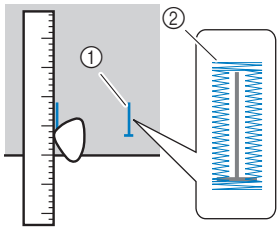


① 台皿
② 押えスケール
③ ピン
④ しるし
⑤ 5mm

お願い

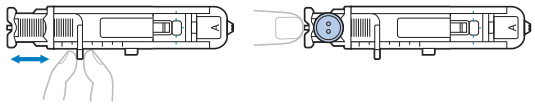
- ボタン穴かがりをする前に、ぬい目の長さと振り幅を確認するために、実際に使用する布のはぎれを使用して試しぬいをしてください。

1 布地の穴かがりをする位置に、ボタン穴の長さのしるしをつけます。



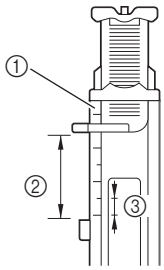
① しるし
② ボタン穴かがり（出来上がり）

2 ボタン穴かがり押え＜ A ＞の台皿を引き出し、ボタン穴に通すボタンをのせてはさみます。



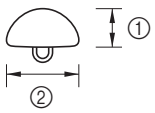
■ ボタンが台皿にのらない場合

押えスケールの目盛りを使用して、穴かがりの大きさを設定します。押えスケールは 1 目盛り 5mm です。押えスケールの目盛りをボタンの直径 + 厚みの寸法に合わせてください。



① 押えスケール
② でき上がり寸法（直径 + 厚み）
③ 5mm

例：直径 1.5cm 厚み 1cm のボタンの場合、2.5cm の目盛りに合うように、台皿を引き出します。



① 厚み 1cm
② 直径 1.5cm

→ ボタン穴かがりの大きさが決まります。

3 ボタン穴かがり押え＜A＞ を取り付けます。

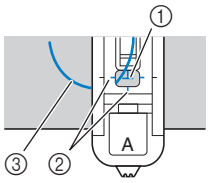
ボタン穴かがり押え＜ A ＞を取り付ける前に、上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

4 模様を選択します。

番号	37	38	39	40	41
模様					

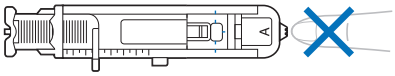
• 詳細は、「ぬい方早見表」（P.31）を参照してください。

5 ボタン穴かがり押えの赤いしるし両側と布地のしるし手前側を合わせ、押えレバーを下げます。



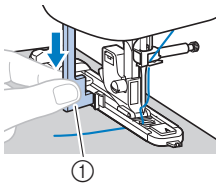
① 布地のしるし（手前）
② ボタン穴かがり押えの赤いしるし
③ 上糸

お願い
- 押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。ボタン穴が正確な大きさにぬえません。



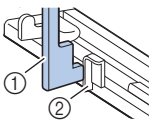
お知らせ
- しるしの位置を合わせにくい場合は、プーリーをゆっくりと手前に回して針が刺さる位置を確認し、そこに布地のしるしを合わせます。

6 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。



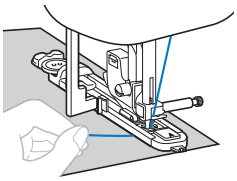
① ボタン穴かがりレバー

ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。



① ボタン穴かがりレバー
② 突起部

7 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



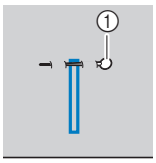
→ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

8 ✂(糸きりスイッチ) を 1 回押して糸を切り、押えを上げて布地を取り出します。

お知らせ
- ミシン左側の糸切りやはさみで糸を切る場合は、↕(針上下スイッチ) で針を上げ、押えも上げて、布を引き出してから糸を切ってください。

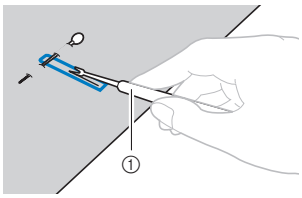
9 ボタン穴かがりレバーを元に戻します。

10 ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの片方の内側にまち針を刺します。



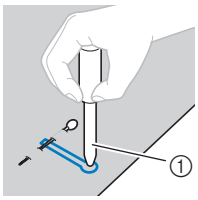
① まち針

11 リッパーをまち針の方へ向けて、ボタン穴を切り開きます。



① リッパー

はとめ穴の場合は、ボタン穴の丸い側にはとめ穴パンチで穴をあけてから、リッパーで切り開きます。



① はとめ穴パンチ

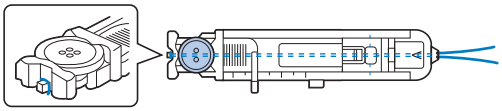
- はとめ穴パンチを使用するときは、布地に穴をあける前に布地の下に厚紙や保護シートを敷いてください。

⚠ 注意
- リッパーで穴をあける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにけがをするおそれがあります。
- リッパーは、本来の使用目的以外での使用はしないでください。

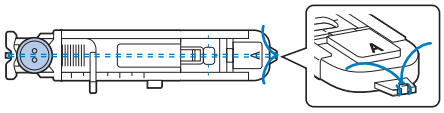
■ 伸びる布地をぬうとき

伸びる布地にボタン穴かがりをするときは、芯ひもを入れてぬいます。

1. ボタン穴かがり押え＜A＞の図の部分に芯ひもをかけます。



2. 芯ひもの端を反対側のミゾにはさんで軽く結びます。

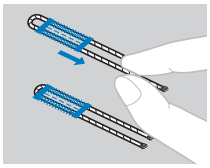


3. ボタン穴かがり押え＜A＞を取り付けます。
4. 模様を選択します。

番号	39	40
模様		

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.31）を参照してください。

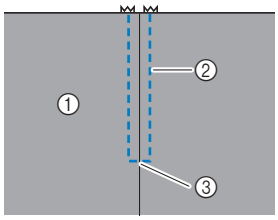
5. 芯ひもの太さより大きめに振り幅を設定します。
6. 押えレバーを下げ、ボタン穴かがりレバーを下げて、ミシンをスタートさせます。
7. ぬい終わったら、芯ひもを引いてたるみをなくします。



8. 手ぬい針を使用して布地の裏側に芯ひもを引き出して結びます。

ファスナーつけ

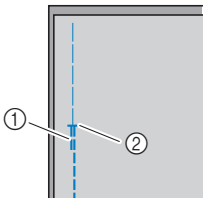
つき合わせた布地の両方にステッチが入ります。



① 表
② ステッチ
③ あき止まり

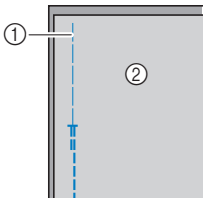
1. ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。
2. あき止まりから下側に地ぬいをします。

布地は中表にし、あき止まりは返しぬいをします。



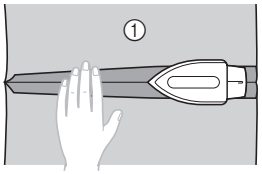
① 返しぬい
② あき止まり

3. ファスナーをつける部分のでき上がり線にしつけをします。



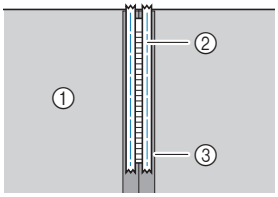
① しつけ
② 裏

4. ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



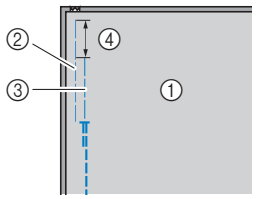
① 裏

5. ぬい目とファスナーの中央を合わせて、しつけをします。



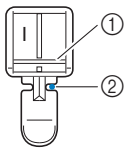
① 裏
② しつけ
③ ファスナー

6 でき上がり線のしつけを布端から5cmの位置までほどきます。



① 裏
② ファスナーのしつけ
③ でき上がり線のしつけ
④ 5cm

7 片押え＜I＞のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。



① ピン右側
② 針落ち位置

8 模様を選択します。

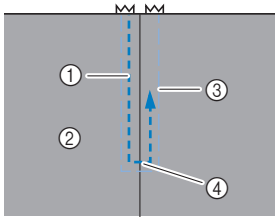
番号	03
模様	

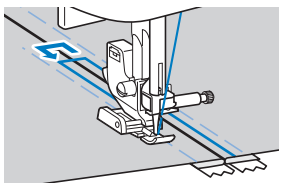
- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.31）を参照してください。

⚠ 注意

- 片押え＜I＞を使用するときは、必ず直線［中］を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

9 布地の表からステッチをかけます。





① ステッチ
② 表
③ しつけ
④ あき止まり

⚠ 注意

- ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

お知らせ

- 押えがファスナーのスライダーに当たる場合は、針が下がった（布地に刺さった）状態にして押えを上げます。押えに当たらないようスライダーを動かしてから、押えを下げ続きをぬいます。

10 しつけをほどきます。

アップリケ／パッチワーク／キルトぬい

■ アップリケ

1 アップリケ布を土台用の布にしつけするか、のりづけをして固定します。

お願い

- のりでアップリケ布を土台になる布にとめる場合は、ミシンでぬう部分にのりをつけないでください。のりが針やかまに付着すると故障の原因となります。

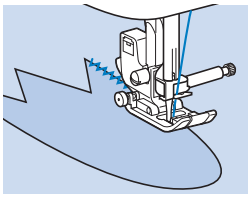
2 ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

3 模様を選択します。

番号	16	20	21
模様			

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.31）を参照してください。

4 プーリーを手前に回し、アップリケ布の端から少し外側に針が刺さるようにしてぬい始めます。



急な角度をぬうときは、アップリケ布の外側に針を刺したままミシンを止め、押えレバーを上げて少しずつ方向を変更しながらぬいます。

■ パッチワーク（クレイジーキルト）

1 上側になる布地の端を折って下側の布地と重ねます。

2 ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

3 模様を選択します。

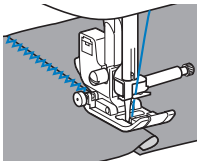
- 下記の模様は例です。お好みの模様を選択してください。

番号	16	24	25	26
模様				

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.31）を参照してください。

4 両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

必要に応じてまち針を使用してください。



⚠ 注 意

- まち針をぬわないようにご注意ください。

■ ピーシング

パッチワークで布と布（ピース）をぬい合わせることを、「ピーシング」といいます。布地は、すべて 7mm のぬいしろを付けて裁断します。
ピーシング用直線は、押えの右端、または左端から 7mm のところをぬいます。

1 ピーシングする布地のぬいしろを、しつけまたはまち針で留めます。

2 ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

3 模様を選択します。

番号	14
模様	

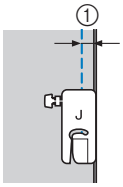
- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.31）を参照してください。

4 押えの端に布端を合わせてぬいます。

□ ぬいしろが右側のとき

押えの右端に布端を合わせ、  の模様でぬいます。

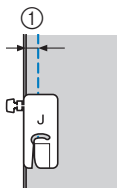
① 7mm



□ ぬいしろが左側のとき

押えの左端に布端を合わせ、振り幅を 2.0mm に設定し、  の模様でぬいます。

① 7mm



お知らせ

- ぬいしろの幅を変更する（針位置を変更する）場合は、「振り幅を調節する」（P.26）、「布端から一定の距離をぬう」（P.28）を参照してください。

■ キルティング

表布と裏布の間にキルト綿をはさんでぬい合わせることを、「キルティング」といいます。ウォーキングフット * やキルター * を使用すると、きれいにぬうことができます。
* これらは別売品です。

お願い

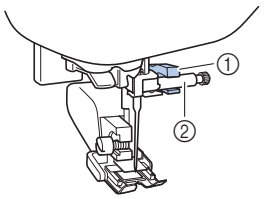
- ウォーキングフットを使用するときは、手で針に糸を通してください。糸通し装置を使用する場合は、糸を通した後にウォーキングフットを取り付けてください。
- キルティングでは、14 番の針を使用してください。
- ウォーキングフットは、直線模様またはジグザグ模様のみに使用できます。ウォーキングフット使用時は返しぬいをしないでください。
- ウォーキングフットを使用するときは、速さをゆっくり～中速でぬってください。
- ウォーキングフットを使用するときは、あらかじめ実際に使用する生地のはぎれで試しぬいをしてください。

1 布地にしつけをします。

2 押えと押えホルダーを取り外します。

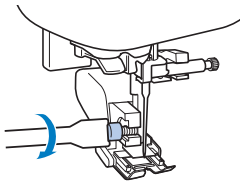
- 詳細は、「押えホルダーを取り外す／取り付ける」（P.20）を参照してください。

3 ウォーキングフットのレバーのふたまた部分で、針のとめネジをはさみます。



① ふたまた部
② 針のとめネジ

4 押えレバーを下げ、押えホルダーのネジをドライバーで確実にしめます。



⚠ 注意

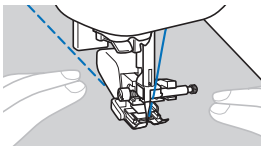
- ネジはドライバーで確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 必ず、ぬう前にプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

5 模様を選択します。

番号	04	16
模様		

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.31）を参照してください。

6 押えの両側に手を置き、布地をしっかりと張ってぬいます。

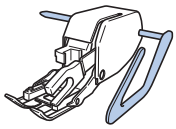
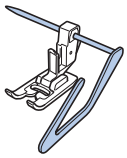


□ キルターを使用する（別売）

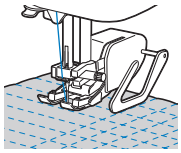
キルターを使用すると、ぬい目を平行にそろえて等間隔にぬうことができます。

1 ウォーキングフットまたは押えホルダーの後部にある穴に、キルターの棒を差し込みます。

□ ウォーキングフット　□ 押えホルダー

2 ぬい終わったぬい目とキルターのガイドが合うように、棒の長さを調節します。



■ フリーモーションキルト

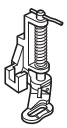
フリーモーションキルトでは、フットコントローラーを取り付けて、一定の速度でぬうことをおすすめします。ぬう速度は、ミシンのスピードコントロールレバーで調節できます。

⚠ 注意

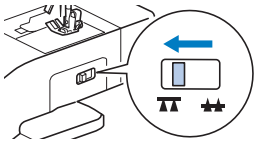
- フリーモーションキルトでは、ぬう速度に合うように布を動かしてください。無理に速く布地を動かすと、針が折れたり、他の損傷が起きるおそれがあります。

キルト押え（別売）は、ジグザグ模様や飾り模様をフリーモーションキルトでぬう場合や、厚さが均一ではない布地にフリーモーションキルトの直線ぬいをする場合に使用します。

□ キルト押え



1 ミシン本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側（▲▲）にします。



→ 送り歯が下がります。

2 模様を選択します。

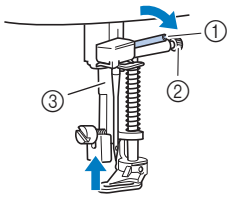
番号	04	16
模様		

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.31）を参照してください。

3 押えホルダーを取り外します。

- 詳細は、「押えホルダーを取り外す／取り付ける」（P.20）を参照してください。

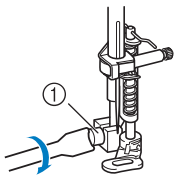
4 キルト押えのピンを針のとめネジの上に配置して、左下を押え棒に合わせて、キルト押えを取り付けます。



① ピン
② 針のとめネジ
③ 押え棒

お願い
- キルト押えが傾いていないことを確認してください。

5 右手でキルト押えを持ちながら、左手で押えホルダーのネジをドライバーでしめます。

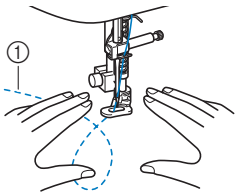


① 押えホルダーのネジ

注意
- ネジをしめるときは、必ず付属のドライバーを使用してください。ネジを確実にしめないと針がキルト押えに当たり、曲がったり折れたりするおそれがあります。

6 両手で布地を引っ張り、一定の速度で布地を送り、ぬい目の長さが均一に約 2.0 ～ 2.5mm になるようにぬいます。

① ぬい目



7 ぬい終わったら、ドロップレバーを背面から見て右側（▲▲）にし、プーリーを回して送り歯を上げます。

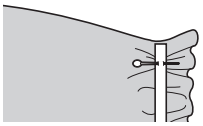
その他のぬい方

■ ゴムテープつけ

そで口やウエストなどにゴムテープをぬいつける場合、ゴムテープが縮んでいる状態ができ上がり寸法になります。必要な長さのゴムテープを用意します。

1 まち針で布地の裏側にゴムテープを留めます。

布地とゴムテープが均等になるようにまち針で数か所留めます。



2 ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

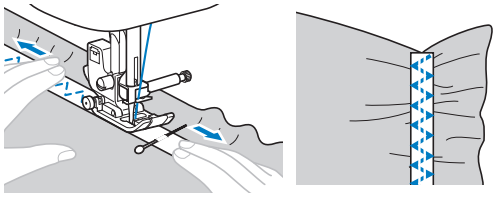
3 模様を選択します。

番号	09
模様	

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.31）を参照してください。

4 ゴムテープが布地と同じ長さになるように伸ばしながらぬいます。

左手で後ろ側の布地を引っ張り、右手で押えに一番近いまち針のところを引っ張ります。



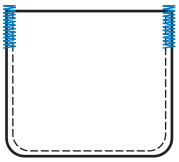
⚠ 注 意

- ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

■ かんどめ

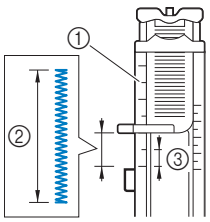
かんどめは、ポケット口やあき止まりなど、力のかかる部分を補強するときに使用します。

ここでは、ポケット口にかんどめをする場合を例に説明します。



1 かんどめの長さを決めます。

ボタン穴かがり押え＜ A ＞の押えスケールの目盛り（1 目盛り 5mm）を合わせて、長さを決めます。



① 押えスケール
② かんどめのでき上がり寸法
③ 5mm

- 最大約 28mm のかんどめができます。

2 ボタン穴かがり押え＜ A ＞を取り付けます。

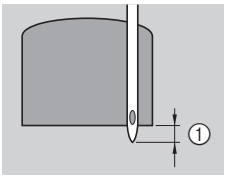
ボタン穴かがり押え＜ A ＞を取り付ける前に、上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

3 模様を選択します。

番号	42
模様	

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.31）を参照してください。

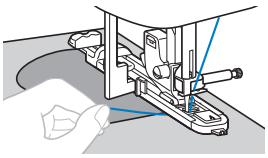
4 ポケット口が手前になる向きに布地を置き、ポケット口より 2mm 手前に針が刺さる位置で押えレバーを下げます。



① 2mm

5 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。

6 左手で上糸の端を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



7 ぬい終わったら押えレバーを上げ、布地を取り出してから、糸を切ります。

8 ボタン穴かがりレバーを上げて、元に戻します。

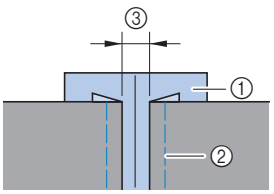
■ ファゴティング

布地と布地の間を離して糸でかがるぬい方を「ファゴティング」といいます。ブラウスや子供服などに使用します。太い糸を使用するときれいに仕上がります。

1 布地をでき上がり線で折って、アイロンをかけておきます。

2 ハトロン紙などの薄い紙に 4mm の間隔をあけて、布地をしつけします。

ハトロン紙の中央に線を書いておくとぬいやすくなります。



① ハトロン紙
② しつけ
③ 4mm

3 ジグザグ押え＜ J ＞を取り付けます。

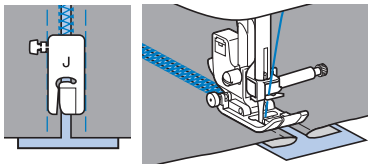
4 模様を選択します。

番号	28	29
模様		

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.31）を参照してください。

5 ジグザグの振り幅を 7.0mm に設定します。

6 押えの中心を布地と布地の中心に合わせてぬいます。



7 ぬい終わったら、紙を取り除きます。

■スカラップ

貝殻を並べたような連続した波形の模様を「スカラップ」といいます。ブラウスの衿やふち飾りなどに使用します。

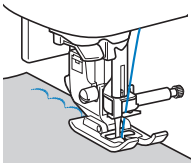
1 模様ぬい押え＜N＞を取り付けます。

2 模様を選択します。

番号	23
模様	

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.31）を参照してください。

3 模様が布端にかからないように、布端から少し離してぬいます。



4 ぬい目にそって布端を切ります。

- ぬい目を切らないように注意してください。

■スモッキング

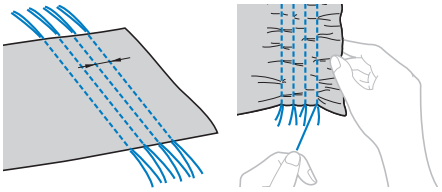
ギャザーの上に飾りぬいまたは刺しゅうをすることを「スモッキング」といいます。ブラウスの胸もとやそで口の飾りなどに使用します。
布地に模様を施すと同時に伸縮性もつけられる、飾りと実用を兼ねたぬい方です。

1 ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

2 直線を選択し、ぬい目の長さを 4.0mm、上糸調子を弱めに設定します。

3 1cm の間隔をあけて、平行に数本ぬい、下糸を引いてギャザーをよせます。

アイロンでギャザーを整えておきます。

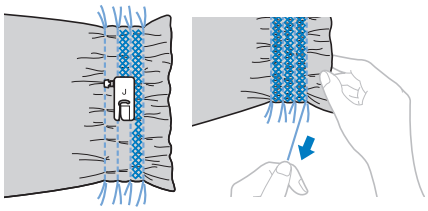


4 模様を選択します。

番号	27	28	29
模様			

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.31）を参照してください。

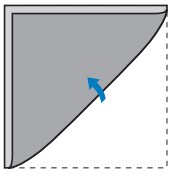
5 直線ぬいの間をぬい、直線ぬいの糸を抜き取ります。



■シェルタック

貝殻を並べたような連続したひだを作ることを「シェルタック」といいます。ふちどりや、ブラウスの胸もと、そで口の飾りなどに使用します。薄地の布地を使用します。

1 布地をバイアスに折ります。



2 ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

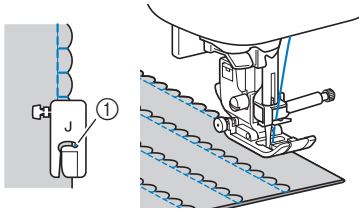
3 模様を選択し、糸調子を強めにします。

番号	22
模様	

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.31）を参照してください。

4 針が布端から少し外に落ちるようにぬいます。

① 針落ち位置



5 ぬい終わったら、布地を取りだします。布地を開き、折り山を片側に倒してアイロンをかけます。

■ つき合わせ

つき合わせたぬいしろ部分の上から飾り模様をぬいます。クレイジーキルトなどに使用します。

1 ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

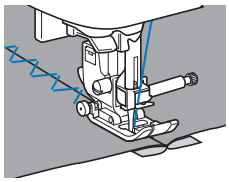
2 直線ぬいを選択し、布地を中表にしてぬい合わせ、ぬいしろを開きます。

3 模様を選択します。

番号	24	25	26
模様			

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.31）を参照してください。

4 布地を表に返し、押えの中心と布地と布地の中心を合わせてぬいます。



■ ヘアルーム

別売のウィングニードルを使用し、針穴を大きくあけてレース風の飾り模様をぬいます。すその飾りやテーブルクロスなどに使用します。薄地または普通地で、張りのある平織りの布地を用意します。

1 ウィングニードルを取り付けます。



- ウィングニードルは、モデル名：WN001 を使用してください。
- 針の取り付け方の詳細は、「針の交換」（P.18）を参照してください。
- ウィングニードルを取り付けたときは、糸通し装置は使用できません。糸通し装置を使用すると、故障の原因となります。針穴の手前から向こう側に手で糸を通してください。

2 模様ぬい押え＜N＞を取り付けます。

3 模様を選択します。

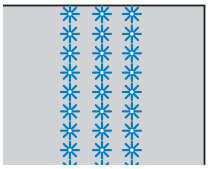
番号	34	35	36
模様			

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.31）を参照してください。

注 意

- ウィングニードルを使用するときは、ジグザグの振り幅は、6.0mm 以下に設定してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- ジグザグの振り幅を調節したときは、プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

4 ミシンをスタートさせます。



模様の調整をする

布地の種類、厚さ、接着芯の種類、ぬう速さなどによっては、模様がくずれる場合があります。模様がくずれた場合は、実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをし、次のように調整してください。以下で説明する調整をしても模様がくずれる場合は、個々の模様で調整してください。

お知らせ

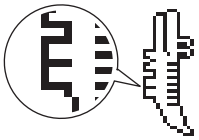
- この調整は、 （キルティング模様）、飾り模様、サテンステッチ、クロスステッチに対して有効です。詳細は、「ぬい方早見表」（P.31）を参照してください。

1 模様選択ダイヤルを回して(--)を選択します。

2 模様ぬい押え＜N＞を取り付け、模様をぬいます。

お願い
- 必ず、模様ぬい押え＜N＞を使用してください。他の押えでは、模様の調整が正しくできないことがあります。

3 ぬい上がりを次の正しい模様と比較します。

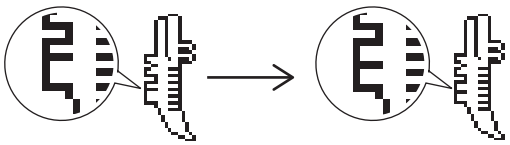


4 ぬい目の長さ調節キーで模様を調節します。



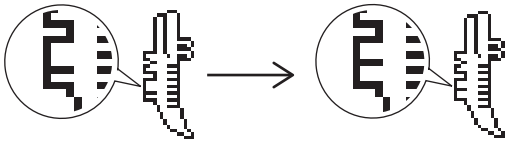
□ 模様がつまっているとき：
ぬい目の長さ調節キーの「＋」側を押します。

→ このキーを押すごとに表示値が大きくなり、模様が伸びます。



□ 模様にすきまがあるとき：
ぬい目の長さ調節キーの「－」側を押します。

→ このキーを押すごとに表示値が小さくなり、模様がつまります。



5 もう一度ぬいます。

- 模様がくずれている場合はもう一度調整します。正しい模様がぬえるようになるまで調整してください。

お願い
- この模様をぬうときは、スピードコントローラーを使用できません。

第4章 付録

お手入れのしかた

⚠ 注 意

- ミシンの掃除は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。けがまたは感電の原因となります。

本体表面の汚れを取るときは、中性洗剤をうすめて布に浸して固くしぼり、ふき取ります。洗剤でふいたあとは、乾いた布でふき取ります。

画面が汚れた場合は、乾いたやわらかい布地などで軽くふきとってください。有機溶剤や洗剤は使用しないでください。

注油に関して

お客様ご自身による本製品への注油は行わないでください。故障の原因となります。本製品の動作に必要な油はあらかじめ十分に塗布されて出荷されていますので、定期的に注油する必要はありません。万一、プーリーを回すと重い、異常な音がするなどの症状が発生した場合は、ただちに使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

ミシンを保管するときのご注意

以下の場所にミシンを保管しないでください。

結露によるさびの発生など、故障の原因となります。

- 温度が著しく高くなる場所
- 温度が著しく低くなる場所
- 急激に温度が変化する場所
- 湿気、湯気が多い場所
- 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所
- 屋外や直射日光の当たる場所
- ほこり、油煙の多い場所

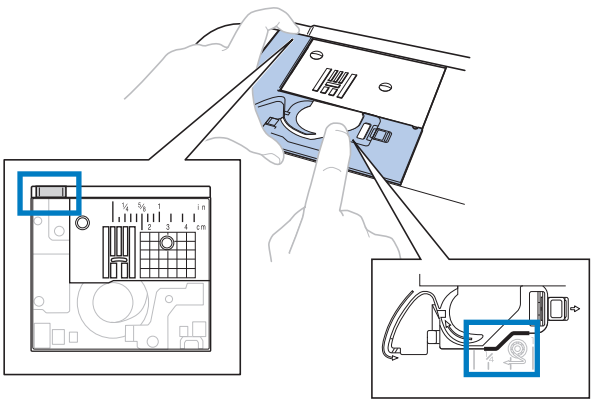
☼ お願い

- 本製品を末永くご愛用いただくために、ときどき電源を入れて、縫製してください。
  長期間保管したまま使用しない状態が続くと、ミシンの性能を損なうおそれがあります。

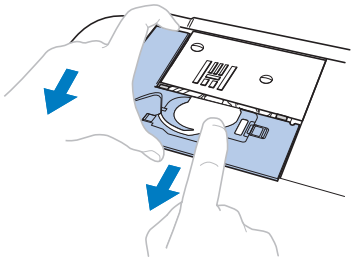
かまの掃除

かまには糸くずやほこりがたまりやすく、縫製不良の原因になる場合があります。定期的に掃除してください。

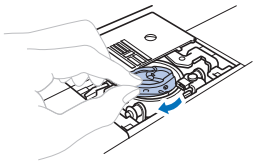
1. (針上下スイッチ）を押して針を上げます。
2. 電源を切ります。
3. 電源プラグをコンセントから抜きます。
4. 押えを取り外します。
   - 「押えの交換」（P.19）を参照してください。
5. 針を取り外します。
   - 「針の交換」（P.18）を参照してください。
6. 補助テーブルを取り付けている場合は外します。
7. 針板ふたを外します。
8. 右手人差し指を針板ふたのつまみ下部付近に添えます。
   針板カバーの奥側にあるくぼみに左手の人差し指をかけます。
   左手の親指で針板カバーの手前を持ちます。



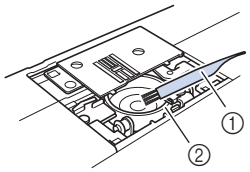
9 針板カバーを手前にスライドさせて取り外します。



10 内かまをつかみ、取り出します。



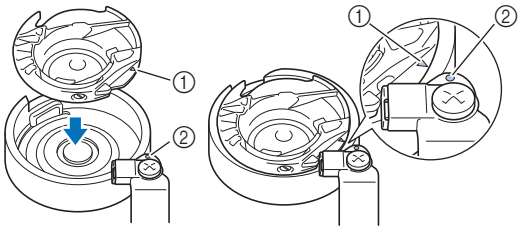
11 ミシンブラシや掃除機で、外かま周辺の糸くずやほこりを取り除きます。



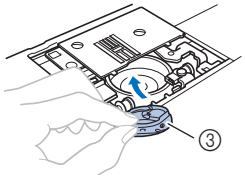
① ミシンブラシ
② 外かま

- 内かまに油をささないでください。

12 内かまの▲印とミシンの●印が合うように、内かまを取り付けます。



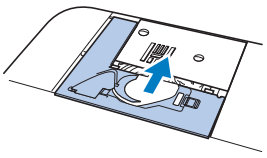
- ▲印と●印を合わせます。



① ▲印
② ●印
③ 内かま

- 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。

13 針板カバーの突起を針板に差し込み、そのままミシンに取り付けます。



14 針板ふたを元に戻します。

⚠ 注 意

- 傷がついた内かまは使用しないでください。万一使用すると、上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。新しい内かまが必要な場合は、最寄りの販売店でお買い求め下さい。
- 内かまは正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

困ったとき

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に次の項目および弊社サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（http://s.brother/cpjak/）の「よくあるご質問(Q&A)」を確認してください。

それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番)」にご相談ください。

■ よくあるご相談

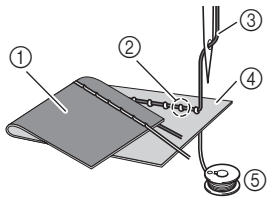
以下のよくあるご相談については、詳しい原因と対処方法を記載しております。お問い合わせの前にご確認ください。

上糸がつる	P.51 参照
布裏で糸がからまる	P.51 参照
糸調子が合わない	P.52 参照
布がミシンに入り込んでとれなくなった	P.53 参照
ボビン受け座の下に糸がからまってしまった	P.55 参照

上糸がつる

■ こんなとき

- 上糸がピンと一本線になっている。
- 布地の上側の面に下糸がポツポツと出ている。(下図参照)
- 上糸がつっていて、引くと抜けてしまう。
- 上糸がつっていて、布にしわがよってしまう。
- 上糸が強く、糸調子を調節してぬい直してもまったく変わらない。



① 布地の下側の面
② 布地の上側の面に下糸が出ている
③ 上糸
④ 布地の上側の面
⑤ 下糸

■ 原因

下糸のセットがまちがっている
下糸のセットがまちがっていると、下糸に適正な張力が加わらず、上糸が引き上げられる際に布地まで一緒に引っ張られてしまいます。そのため、布地の上に糸が出てしまいます。

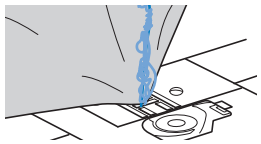
■ 対処方法／確認内容

下糸を正しくセットします（P.12 参照)。

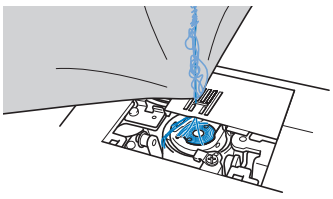
布裏で糸がからまる

■ こんなとき

- 布の下側で糸がグチャグチャにからんでしまう。



- ぬい始めるとすぐにガタガタと音がして進まなくなる。
- 布地の下側を見ると、かまの中まで糸が何重にもからまっている。



■ 原因

上糸のセットがまちがっている
上糸のセットがまちがっていると、布地を貫通した上糸をしっかりと引き上げることができず、かまの中に上糸がたまり、グチャグチャにからんでしまい、ガタガタと音がします。

■ 対処方法／確認内容

からんだ糸を取り除き、上糸をセットし直します。

1 からんだ糸を取ります。取れない場合は、はさみで糸を切ります。

- 「かまの掃除」（P.49）を参照してください。

2 いったん上糸をミシンから取り外します。

3 「上糸を通す」（P.14）の手順に従って、正しく上糸をセットします。

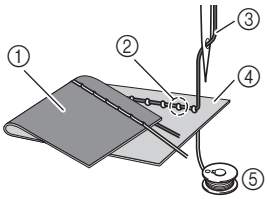
- ボビンを内かまから取り出した場合は、「下糸をセットする」（P.12）を参照して、正しくボビンをセットしてください。

糸調子が合わない

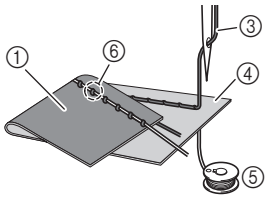
■ こんなとき

- 症状① 布地の上側にポツポツと下糸が出ている。（下図参照）
- 症状② 布地の上側で上糸が直線になる。
- 症状③ 布地の下側にポツポツと上糸が出ている。（下図参照）
- 症状④ 布地の下側で下糸が直線になる。
- 症状⑤ 布地の下側のぬい目がゆるい、またはたるむ。

□ 症状①



□ 症状③



① 布地の下側の面
② 布地の上側の面に下糸が出ている
③ 上糸
④ 布地の上側の面
⑤ 下糸
⑥ 布地の下側の面に上糸が出ている

■ 原因／対処方法／確認内容

□ 原因 1

糸が正しくミシンにセットされていない。

＜症状①、②に該当する場合＞
下糸が正しくセットされていません。
糸調子ダイヤルを「自動」にしてから、「上糸がつる」（P.51）を参照してセットし直します。

＜症状③～⑤に該当する場合＞
上糸が正しく通っていません。
糸調子ダイヤルを「自動」にしてから、「布裏で糸がからまる」（P.51）を参照して上糸をかけ直します。

□ 原因 2

布地に合った糸や針を使用していない。

ミシン針は布地の種類や糸の太さによって使い分けが必要です。
布地に合った糸と針を使用しないと、糸調子が合わなかったり、布地にしわが寄ったり、目とびの原因になったりします。

- 「布地と糸の種類による針の使い分け」（P.17）の一覧表を参照して、布地に合った糸と針を使用しているか確認してください。

□ 原因 3

上糸調子の設定値が適正でない。

適正な糸調子になるように調節します。
「糸調子を調節する」（P.26）を参照してください。
使用する布地／糸の種類やぬい方によって、適正な糸調子は異なります。

* 実際に使用する布地のはぎれで試しぬいをして、糸調子を調節してください。

> **お願い**
> - 上糸の通し方や下糸のセットが正しくされていない場合は、糸調子の調節が正しく行えません。上糸かけ、下糸セットの確認を先に行ってから、糸調子の調節を行ってください。

- **布地の上側に下糸が見える場合**
  糸調子ダイヤルを左に回し、糸調子を弱くします。



- **布地の下側に上糸が見える場合**
  糸調子ダイヤルを右に回し、糸調子を強くします。



布がミシンに入り込んでとれなくなった

布がミシンに入り込んでとれない場合、糸が針板の下でからんでいることがあります。以下の手順で、布をミシンから取り外してください。操作が手順どおりに進まない場合は、無理に作業を続けず、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

■ 布をミシンから取り外す

1 直ちにミシンを停止させます。

2 電源を切ります。

3 針を取り外します。

針が布に刺さっている場合は、プーリーを奥側（時計回り）に回して針を布から外してから、針を取り外してください。

- 「針の交換」（P.18）を参照してください。

4 押えと押えホルダーを取り外します。

押えに糸がからみついている場合は、からんだ糸を取り除いてから、押えレバーを上げて押えを取り外してください。押えが破損するおそれがあります。

- 「押えの交換」（P.19）を参照してください。

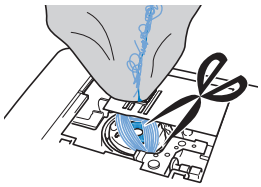
5 布を持ち上げて、布の下の糸を切ります。

ここで布を取り外すことができる場合は、取り外してください。次の手順へ進み、かまの掃除をします。

6 針板カバーを外します。

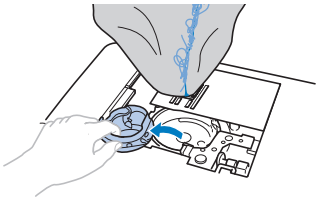
- 「かまの掃除」（P.49）を参照してください。

7 からんだ糸を切ってボビンを取り出します。

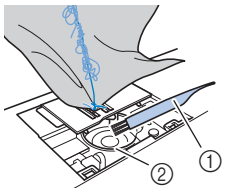


8 内かまを取り出します。

内かまに糸が残っている場合は、取り除いてください。



9 ミシンブラシや掃除機で、外かま周辺の糸くずやほこりを取り除きます。

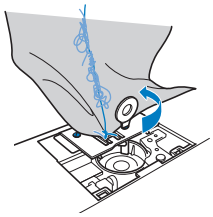


① ミシンブラシ
② 外かま

ここまでの手順で布を取り外せた場合	→ 手順 16 に進む
ここまでの手順で布が取り外せない場合	→ 手順 10 に進む

お願い
- 缶入り圧縮空気は使用しないでください。

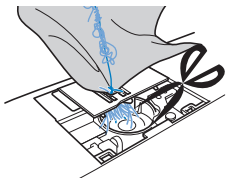
10 ネジ回しを使用して、針板の 2 つのネジを取り外します。



お願い
- 取り外したネジを、ミシンの中に落とさないように注意してください。

11 針板を少し持ち上げ、絡んだ糸を切って、針板を取り外します。

針板から布と糸を取ります。



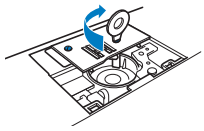
ここまでの手順を終えても布が取り外せない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

12 かまや送り歯のまわりの糸を取り除きます。

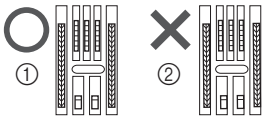
13 プーリーを回して、送り歯を上に上げます。

14 針板の 2 つのネジ穴を針板取付け部の 2 つの穴に合わせながら、ミシンに針板をはめ込みます。

15 針板の右側のネジを手で軽くしめます。次に、左側のネジをネジ回しでしっかりしめます。最後に右のネジもしっかりしめます。



プーリーを回して、送り歯が針板のミゾの端に当たらず、スムーズに動くことを確認してください。



① 正しい送り歯の位置
② 正しくない送り歯の位置

16 「かまの掃除」（P.49）の手順 12 のように、内かまを取り付けます。

17 針板カバーを取り付けます。（「かまの掃除」（P.49）の手順 13 参照）

18 針の状態を確認して、針をミシンに取り付けます。

曲がっているなど針が悪くなっている場合は、必ず新しい針を取り付けてください。

- 「正しい針の見分け方」（P.18）および「針の交換」（P.18）を参照してください。

お知らせ
- 布がミシンに入り込んだ際に、針が損傷しているおそれがありますので、新しい針に交換することをおすすめします。

■ ミシンの動作を確認する

針板を取り外したあとは、正しく取り付けられていることを確認するために、ミシンの動作確認をしてください。

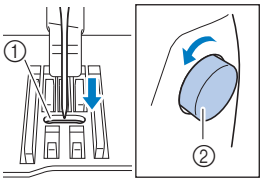
1 電源を入れます。

2 中基線の模様 を選択します。

お願い
- 押えと糸は、まだミシンにセットしないでください。

3 プーリーをゆっくりと手前（時計と反対回り）に回し、針が針板の穴の中央に落ちることを左右前後から見て確認します。

針が針板に当たる場合は、もう一度針板を取り外し、「布をミシンから取り外す」（P.53）の手順 13 からやり直してください。



① 針板の穴
② プーリー

4 ジグザグ模様 を選択します。このとき、ぬい目の長さとジグザグ振り幅を最大にしてください。

- 設定の変更については、「振り幅を調節する」（P.26）および「ぬい目の長さを調節する」（P.26）を参照してください。

5 プーリーをゆっくりと手前（時計と反対回り）に回し、針棒と送り歯が正しく動くことを確認します。

針や送り歯が針板に当たる場合は、ミシンの故障が考えられますので、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

6 電源を切ってから、押えホルダー、押え、ボビンをセットします。

傷がついたまたは破損した押えを使用しないでください。針折れや縫製不良の原因となります。

- 「押えの交換」（P.19）および「下糸をセットする」（P.12）を参照してください。

7 上糸をかけ直します。

- 上糸のかけ方については、「上糸通し」（P.14）を参照してください。

8 普通地で試しぬいをします。

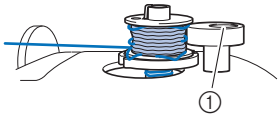
お願い
- 正しくぬえない場合、原因として、上糸が正しくセットされていないことや薄い布地を使用していることが考えられます。試しぬいの仕上がりが良くない場合は、上糸のかけ方や使用している布地を確認してください。

ボビン受け座の下に糸がからまってしまった

糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていない状態で下糸を巻くと、ボビン受け座の下に糸が巻かれてしまうことがあります。

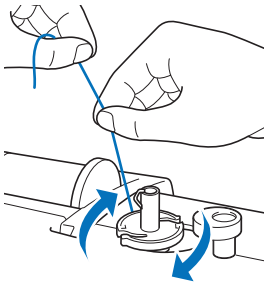
⚠ 注 意

- ボビン受け座の下に糸が巻かれても、ボビン受け座は外さないでください。受け座のカッターでけがをするおそれがあります。
- ボビンホルダーのネジは外さないでください。外すと、ミシンが故障するおそれがあります。ネジを外しても、糸はほどけません。



① ボビンホルダーのネジ

1. 下糸巻きを停止します。
2. 下糸巻き案内側で、はさみで糸を切ります。
3. ボビンを左側へ戻し、下糸巻き軸からボビンを抜きます。ボビンと軸の間で糸を切り、ボビンを軸から完全に取り外します。
4. 図のように左手で糸端を持ち、右手でボビン受け座近くの糸をゆっくりと時計回りに回して、からまった糸をほどきます。



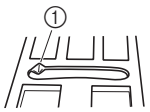
こんなときは

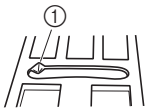
修理を依頼される前に、次の項目を点検してください。参照ページが「※」のときは、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

■ ぬう前の準備

症状、原因（対処）	ページ
糸通しができない／針穴に糸が通らない	
針が正しい位置にない。 • 針上下スイッチを押して針を上げます。	6
針の取り付け方がまちがっている。	18
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	18
上糸の通し方がまちがっている。 糸通しレバーをいっぱいまで下げていない。	14
糸通しフックが曲がっていて針穴に通っていない。	※
糸通し装置が動かない。糸通し装置が戻らない。	※
9 番の針を使用している。 • 糸通し装置に対応しない針です。手で糸を針穴に通してください。	15
下糸がボビンにきれいに巻けない	
下糸巻き案内に糸がしっかりかかっていない。	11
下糸巻き案内から引き出した糸を正しくボビンに巻き付けていない。	11
ボビンが下糸巻き軸に正しくセットされていない。	10
下糸巻き中、ボビン受け座の下に下糸が巻かれた	
下糸巻き案内の皿に糸が正しく通っていない。 • からまった糸をほどき、下糸巻きをします。	10, 55
下糸を引き出すことができない	
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	18
下糸のセットのしかたがまちがっている。	12
液晶画面に何も表示されない	
電源スイッチが入っていない。	8
電源プラグがコンセントに差し込まれていない。	8
液晶画面がくもる	
液晶画面が結露している。 • 少し待つと、くもりはなくなります。	–
ライトが点灯しない	
ライトが故障している。	※

■ ぬっているとき

症状、原因（対処）	ページ
ミシンが動かない	
スタート／ストップスイッチを押していない。	22
下糸巻きを行った後、下糸巻き軸が右側のままになっている。	10
押えが下がっていない。	22
フットコントローラーを接続したままスタート／ストップスイッチを押している。	23
針板カバーが正しく取り付けられていない。	49
針が折れる	
針の取り付け方がまちがっている。	18
針のとめネジがゆるんでいる。	18
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	18
布地に合った針・糸を使用していない。	17
模様に合った押えを使用していない。	19
上糸調子が特に強すぎる。	26
布地を不当に引っ張っている。	–
糸こまが正しくセットされていない。	10
針板の穴の周辺にキズがある。 ※ 針板の穴の左端には、くぼみが設けられています。この部分はキズではありません。  ① くぼみ	※
押えの穴の周辺にキズがある。	※
内かまにキズがある。	※
本機純正のボビンを使用していない。	10
上糸の通し方がまちがっている。	14
下糸セットのしかたがまちがっている。	12
押えの取り付けがまちがっている。	19
押えホルダーのネジがゆるんでいる。	20
布地が厚すぎる。	17, 29
厚地などの布地を縫製中に押しこんでいる。	29
ぬい目が細かすぎる。	26
下糸が正しく巻かれていない。	10

症状、原因（対処）	ページ
上糸が切れる	
上糸の通し方がまちがっている（糸こまが正しくセットされていない、糸こま押えの大きさが合っていない、糸が針棒糸かけから外れているなど）。	14
糸にこぶや結び目がある。	–
針に比べて糸が太すぎる。	17
上糸調子が強すぎる。	26
糸がからまっている。	51
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	18
針の取り付け方がまちがっている。	18
針板の穴の周辺にキズがある。 ※ 針板の穴の左端には、くぼみが設けられています。この部分はキズではありません。  ① くぼみ	※
押えの穴の周辺にキズがある。	※
内かまにキズがある。	※
布地に合った針・糸を使用していない。	17
本機純正のボビンを使用していない。	10
布裏で糸がからまる	
上糸の通し方がまちがっている。	14, 51
布地に合った針・糸を使用していない。	17
上糸がつる	
下糸セットのしかたがまちがっている。	12, 51
下糸が切れる	
下糸セットのしかたがまちがっている。	12
下糸が正しく巻かれていない。	10
キズのあるボビンを使用している。	12
糸がからまっている。	53
本機純正のボビンを使用していない。	10
布地にしわがよる	
上糸の通し方、または下糸のセットのしかたがまちがっている。	10, 14
糸こまが正しくセットされていない。	10
布地に合った針・糸を使用していない。	17
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	18
薄地に対してぬい目があらすぎる。	26
糸調子が合っていない。	26, 52
模様に合った押えを使用していない。	19

症状、原因（対処）	ページ
模様が正しくぬえない	
模様に合った押えを使用していない。	19
糸調子が合っていない。	26、52
内かまなどで糸がからまっている。	51
送り歯が下がっている。 • ドロップレバーを右（▲▲）に動かします。	5、42
ぬい目が飛ぶ	
糸の通し方がまちがっている。	10、14
布地に合った針・糸を使用していない。	17
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	18
針の取り付け方がまちがっている。	18
針板の下にゴミがたまっている。	49
薄い布地や伸びる布地をぬっている。 • 布地の下に水溶性シート（不織布タイプ）をしいてぬいます。	29
ぬい目ができない	
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	18
下糸セットのしかたがまちがっている。	10
上糸の通し方がまちがっている。	14
ぬい音が高い／ガタガタと音がする	
送り歯にゴミがたまっている。	49
かまの部分に糸くずが巻きこまれている。	49
上糸の通し方がまちがっている。	14
本機純正のボビンを使用していない。	10
内かまに針が刺さった穴やスリキズがある。	※
布地を送らない	
送り歯が下がっている。 • ドロップレバーを右（▲▲）に動かします。	5
ぬい目が細かすぎる。	26
模様に合った押えを使用していない。	19
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	18
糸がからまっている。	51
ぬい始めに段差があって、ジグザグ押えが傾いている。	29
布地が逆方向に送られる	
送り機構が故障した。	※
針が針板に当たる	
針のとめネジがゆるんでいる。	18
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	18
布がミシンに入り込んでとれない	
糸が針板の下でからんでいる。	53

症状、原因（対処）	ページ
折れた針がミシンの中に落ちた	
• ミシンの電源を切ってから、針板を外します。ミシンの中に落ちた針が見える場合は、ピンセットなどで取り出します。針を取り出したら、針板を元に戻し、新しい針を取り付けます。 電源を入れる前に、プーリーを手でゆっくり手前に回してなめらかに回るか、新しい針が針板の穴の中央を通るか確認してください。プーリーがなめらかに回らない場合やミシンの中に落ちた針を取り出せない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	53
プーリーを回したときに重い	
糸がかまなどにからんでいる。	49、51、53

■仕上がり

症状、原因（対処）	ページ
糸調子が合わない	
上糸の通し方がまちがっている。	14、52
下糸セットのしかたがまちがっている。	12、52
布地に合った針・糸を使用していない。	17
押えホルダーが正しく取り付けられていない。	20
糸調子が合っていない。	26, 52
下糸が正しく巻かれていない。	10
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	18
本機純正のボビンを使用していない。	10
飾り模様がくずれる	
模様に合った押えを使用していない。	31
模様が正しく調整されていない。	46
模様がくずれる	
模様に合った押えを使用していない。	19
薄い布地や伸びる布地をぬっている。 • 布地に接着芯を貼ります。	29
糸調子が合っていない。	26, 52
ぬっている途中で布地を引っ張ったり押さえたり、布地がずれたりしている。 • 布地がまっすぐ送られるように、布に手を軽く添えてぬいます。	22
内かまなどで糸がからまっている	51

エラーメッセージ

誤った操作をしたときは、エラーメッセージでお知らせします。エラーメッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

エラーメッセージが表示されている間に、いずれかの操作キーを押すか、正しい操作をするとエラーメッセージが消えます。

エラーメッセージ（画面内）	原因	対処方法
E1	押えが上がった状態で、スタート／ストップスイッチなどのスイッチを押したときに（フットコントローラーを踏み込んだときに）表示されます。	押えを下げてから操作してください。
E2	ボタン穴かがりレバーが下がった状態で、ボタン穴かがり、またはかんどめ以外の模様を選択して、スタート／ストップスイッチなどのスイッチを押したときに（フットコントローラーを踏み込んだときに）表示されます。	ボタン穴かがりレバーを上げてから操作してください。
E3	ボタン穴かがりレバーが上がった状態で、ボタン穴かがり、またはかんどめの模様を選択して、スタート／ストップスイッチを押したときに（フットコントローラーを踏み込んだときに）表示されます。	ボタン穴かがりレバーを下げてから操作してください。
E4	下糸巻き軸を右に移動させているときに、返しぬいスイッチ、または針上下スイッチを押したときに表示されます。	下糸巻き軸を左に移動させてから操作してください。
E5	フットコントローラーを取り付けた状態で、スタート／ストップスイッチを押したときに表示されます。	フットコントローラーを外して、スタート／ストップスイッチを操作してください。または、フットコントローラーをつけたまま足で操作してください。
E6	糸がらみなどで、モーターがロックしたときに表示されます。	かまの掃除をして、からまった糸を取り除いてください。（P.49） 掃除が終わったら、かまを正しくセットしてください。針が曲がっている場合は、交換してください。その後、上糸を正しくかけ直してから、操作してください。
E9	電源が入った状態で針板カバーを取り外したときに表示されます。	電源を切り、針板カバーを取り付けてから操作してください。
F*	使用中に［F*］が表示されるときは、ミシンが故障していることが考えられます。 （* には数字が入ります。）	お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にお問い合わせください。

電子音について

正しい操作をしたき「ピッ」と鳴ります。

誤った操作をしたときは、「ピッピッ」または「ピッピッピッピッ」と鳴ります。

糸がからむなどしてミシンがロックしたときは、「ピッピッピッ・・・」と 7 秒間鳴り続け、ミシンは自動的に止まります。必ず原因を確認して改善してから、再開してください。

仕様

項目	仕様
本体寸法	41.9 cm（幅）× 19.6 cm（奥行）× 30.7 cm（高さ）
製品質量	6.8 kg
ぬい速度	毎分 70 ～ 850 針
針	家庭用ミシン針（HA × 1）
定格電圧／消費電力	100 V （50/60 Hz）/ 40 W
ライト	白色 LED

* 仕様は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

索引

あ

厚い布地 29
アップリケ 40

い

糸 17
糸切り ..... 22，25
糸こま押え 10
糸調子 ..... 26，52
糸通し装置 15

う

ウィングニードル 46
ウォーキングフット 41
薄い布地 29
内かま 50
上糸 ..... 14，17

え

液晶画面 6
エラーメッセージ 58

お

送り歯 5
押え ..... 19，22，31
押えホルダー 5
お手入れ 49

か

返しぬい ..... 23，24
かんどめ 44

き

キルター 42
キルティング 41

こ

困ったとき 51
ゴムテープ 43

し

シェルタック 45
ジグザグぬい 26
下糸 10
下糸セット 12
下糸巻き 10
下糸巻き案内 10
下糸を引き出す 16

す

スカラップ 45
スピード ..... 11，22
スピードコントロールレバー 6
スモッキング 45

そ

掃除 49
外かま 50

た

たち目かがり 34

ち

直線ぬい ..... 28，31，41

つ

つき合わせ 46
筒もの 27

て

デニム ..... 17，29
電源 8
電子音 58

と

止めぬい ..... 23，24
止めぬい優先 25
ドロップレバー ..... 5，42

な

ナイロン透明糸 ..... 11，15，17，32

に

ニット用針 17

ぬ

ぬいしろの幅をそろえる 28
ぬい目の長さ 26
布地 ..... 17，29

の

伸びる布地 30

は

パッチワーク 41
針 ..... 17，18
針板 ..... 5，53
針板カバー ..... 5，49
針位置 ..... 6，28

ひ

ピーシング 41
皮革 30
ビニール 30

ふ

ファゴティング 44
ファスナー 39
付属品 7
フットコントローラー 23
フリーモーションキルト 42
振り幅 26

へ

ヘアルーム 46

別売品 7

ほ

ボタン穴かがり 37
ボビン 10

ま

まつりぬい 35

め

メタリック糸 15







弊社サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）では、製品に関する様々な情報（サポート動画、Q&A 等）を掲載しております。

■ 製品トップ
http://s.brother/cpjak/



下糸巻き＆下糸セットのサポート動画を見るときは
http://s.brother/cvjae/



上糸通しのサポート動画を見るときは
http://s.brother/cvjaf/



よくあるご質問（Q&A）を見るときは
http://s.brother/cfjak/

アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にお問い合わせください。

■ 保証書について

- ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理については、お買い上げの販売店、または下記の「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

■ お客様相談室（ミシン119番）

本製品の使い方やアフターサービスについてご不明の場合は
お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」までお問い合わせください。

〒467-8577　愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1

お客様相談室（ミシン119番）　Tel：050-3786-1134
050（ゼロ　ゴー　ゼロ）で始まる電話番号です。
Fax：052-824-3031

受付時間: 月曜日～金曜日　9：00～12：00　13：00～17：30
休業日: 土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日

- お客様相談室（ミシン119番）は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
  ミシン背面の定格ハリマーク（銀色シール）の下記部分をご確認ください。



- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「お客様相談室（ミシン119番）」にご連絡ください。
- 上記の電話番号、住所および受付時間は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

■ ホームページ

ブラザーのホームページでは、製品に関する様々な情報を掲載しております。
http://www.brother.co.jp/

弊社サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）では、製品に関するサポート情報を掲載しております。
http://s.brother/cpjak/

Brother SupportCenterは、ブラザー製品のサポート情報（取扱説明ビデオやよくあるご質問など）を提供するモバイルアプリです。
ダウンロードするにはApp StoreまたはGoogle Play™にアクセスしてください。

ブラザー工業株式会社
愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1　〒467-8561

888-M69
XH3367-101①